

3 監 査 第 5 2 号

令和3年8月20日

京丹後市長 中 山 泰 様

京丹後市監査委員 鈴 木 修 一

京丹後市監査委員 松 本 聖 司

令和2年度京丹後市公営企業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和2年度京丹後市公営企業会計（水道事業会計・下水道事業会計・病院事業会計）の決算について審査したので、別紙のとおり意見書を提出します。

令和 2 年 度

京丹後市公営企業会計決算審査意見書

京丹後市水道事業会計

京丹後市下水道事業会計

京丹後市病院事業会計

京丹後市監査委員

目 次

第1	審査の概要	1
1	審査の対象	1
2	審査の期間	1
3	審査の方法	1
第2	審査の結果	1
 【水道事業会計】		
1	事業の概況	5
2	予算執行状況（税込）	5
	(1) 収益的収入及び支出	5
	(2) 資本的収入及び支出	6
3	経営成績（税抜）	8
4	財政状態（税抜）	9
5	むすび	10
	決算審査資料	13
 【下水道事業会計】		
1	事業の概況	25
2	予算執行状況（税込）	25
	(1) 収益的収入及び支出	25
	(2) 資本的収入及び支出	26
3	経営成績（税抜）	28
4	財政状態（税抜）	29
5	むすび	30
	決算審査資料	33
 【病院事業会計】		
1	事業の概況	45
	(1) 入院患者の状況	45
	(2) 外来患者の状況	45
	(3) 訪問看護事業の状況	46
	(4) 通所リハビリテーション事業の状況	46
2	予算執行状況（税込）	46
	(1) 収益的収入及び支出	46
	(2) 資本的収入及び支出	47
3	経営成績（税抜）	49
4	財政状態（税抜）	50
5	むすび	51
	決算審査資料	55

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和2年度京丹後市水道事業会計決算
令和2年度京丹後市下水道事業会計決算
令和2年度京丹後市病院事業会計決算
上記各会計決算附属書類

2 審査の期間

令和3年6月28日から令和3年8月20日

3 審査の方法

審査に当たっては、市長から提出された各事業会計の決算書及び附属書類が、地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成され、計数が正確であるか、各事業の経営成績及び財政状態が適正に表示されているかを確認するため、関係諸帳簿と照合したほか、関係職員から説明を聴取して実施した。

なお、京丹後市下水道事業会計においては、令和2年度が地方公営企業法の全部適用となった初年度であるため、過去との比較ができない項目があるので申し添える。

第2 審査の結果

審査に付された各事業会計決算書及び附属書類は、地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成されており、これらに記載された計数は正確で、経営成績及び財政状態を適正に表示していると認められた。また、予算の執行及び関連する事務の処理は、おおむね適正に行われているものと認められた。

審査の結果の詳細は、以下のとおりである。

なお、文中及び表中の数値は、四捨五入を基本として（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）表示しているため、合計等の数値が一致しない場合がある。

京丹後市水道事業会計

1 事業の概況

事業の概要は、別表 1 のとおりである。

令和 2 年度末現在の給水人口は、50,235 人で前年度に比べて 703 人減少したが、給水件数は 24,100 件で、前年度に比べて 94 件増加となっている。

年間総有収水量は 5,809,590 m³と 23,635 m³減少したが、年間総配水量は 7,416,723 m³で、前年度に比べて 46,887 m³の増加となっている。

有効率は 81.04%で対前年度比 0.83 ポイントの低下、有収率も 78.33%で対前年度比 0.82 ポイントの低下となっている。

給水人口が年々減少していることに加え、社会経済情勢や生活様式の変化に伴う市民の節水意識の向上などによる水需要の変動については、引き続き注視していかねばならない。

管路の状況は、次のとおりである。

(単位：km、%)

区分	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度
管路総延長	785.90	812.52	362.52
石綿管総延長	11.05	14.43	6.88
石綿管布設率	1.4	1.8	1.9

管路総延長 785.90km のうち、石綿管は 11.05km (1.4%) と 3.38km の改善が図られているが、有収率の向上を図る上からも、引き続き老朽管の布設替等が必要である。特に石綿管の布設替を優先して、早急かつ効率的に更新を進められたい。

2 予算執行状況 (税込)

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P4, P5 及び 別表 2 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
水道事業収益	1,442,478	1,444,179	1,701	100.1
営 業 収 益	1,133,227	1,141,825	8,598	100.8
営業外収益	309,251	302,354	△ 6,897	97.8

収益的収入である水道事業収益は、予算額 14 億 4,247 万 8 千円に対して決算額 14 億 4,417 万 9 千円で、収入率は 100.1%となっている。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による経済的負担の軽減のため、令和 2 年 4 月から 6 月までの基本料金を免除するといった特例措置のために、給水収益が 2,202 万 3 千円、消費税及び地方消費税還付金が 3,107 万 1 千円予算額を下回った一方で、長期前受金戻入が 1 億 3,790 万 8 千円上回ったことなどによるものである。

収益的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P4, P5 及び 別表 2 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
水道事業費用	1, 682, 121	1, 536, 857	145, 264	91. 4
営 業 費 用	1, 504, 259	1, 371, 195	133, 064	91. 2
営業外費用	140, 626	138, 426	2, 200	98. 4
特 別 損 失	27, 236	27, 236	0	100. 0
予 備 費	10, 000	0	10, 000	0. 0

収益的支出である水道事業費用は、予算額 16 億 8, 212 万 1 千円に対して決算額 15 億 3, 685 万 7 千円で、執行率は 91. 4%である。不用額の主なものは、営業費用で原水及び浄水費 9, 104 万 5 千円、配水及び給水費 2, 514 万 4 千円である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 3 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
資本的収入	1, 376, 794	809, 819	△ 566, 975	58. 8
加入金	12, 707	11, 886	△ 821	93. 5
企業債	840, 300	452, 500	△ 387, 800	53. 8
補助金	7, 663	7, 663	0	100. 0
出資金	514, 821	320, 621	△ 194, 200	62. 3
工事分担金	0	15, 846	15, 846	—
固定資産売却代金	1, 303	1, 303	0	100. 0

資本的収入は、予算額 13 億 7, 679 万 4 千円に対して決算額 8 億 981 万 9 千円で、収入率は 58. 8%である。これは、予算額に対して企業債が 3 億 8, 780 万円、他会計出資金が 1 億 9, 420 万円下回ったことによるものである。

資本的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 3 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	2, 071, 086	1, 280, 784	538, 414	251, 888	61. 8
建設改良費	1, 480, 061	689, 760	538, 414	251, 887	46. 6
企業債返還金	591, 025	591, 024	0	1	100. 0

資本的支出は、予算額 20 億 7, 108 万 6 千円に対して決算額 12 億 8, 078 万 4 千円で、5 億 3, 841 万 4 千円を翌年度に繰り越し、執行率は 61. 8%となった。主な不用額は、固定資産取得費 1, 298 万 1 千円、施設改良事業費 1 億 2, 264 万 2 千円である。

翌年度繰越分の内訳は、施設改良事業費 2 億 946 万 4 千円、中野浄水場更新整備事業費 3 億 2,895 万円である。

主な施設整備の状況は、次のとおりである。

(決算書 P21～P23 参照)

(単位：千円)

区	分	内	容	金	額
建設改良 (500 万 円以上)	浄水 施設	中野浄水場更新工事（土木Ⅰ期）		105,126	
		中野浄水場更新工事（機械設備）		62,208	
		中野浄水場更新工事（受変電設備）		11,968	
		令和 2 年度 五十河浄水場入出力装置更新工事		10,120	
	送水 施設	令和 2 年度 磯地区送水管布設工事		21,197	
	配水 施設	長岡地区管渠布設工事 その 41 （水道単独分）		14,109	
		善王寺地区管渠布設工事 その 24 （水道単独分）		12,649	
		網野地区管渠布設工事 その 48 （水道単独分）		5,163	
		浅茂川地区管渠布設工事 その 4 （水道単独分）		10,038	
		令和元年度 西谷配水池等情報伝達装置更新工事		5,940	
		令和元年度 木橋地区配水管布設替工事		12,141	
		令和元年度 黒部地区配水管布設替工事 その 1		29,666	
		令和元年度 袖志地区配水管布設替工事		17,431	
		令和元年度 須田地区配水管布設替工事		20,434	
		令和元年度 新庄地区配水管布設替工事		44,018	
		令和元年度 坂井・西橋爪地区配水管布設替工事		50,118	
		長岡地区管渠布設工事 その 43 （水道単独分）		7,961	
		善王寺地区管渠布設工事 その 22 （水道単独分）		14,442	
		浅茂川地区管渠布設工事 その 6 （水道単独分）		8,217	
		令和 2 年度 須田地区配水管布設替工事		36,262	
		令和 2 年度 須田・金谷地区配水管布設替工事		34,763	
		令和 2 年度 畑地区配水管布設替工事 その 1		80,143	

安全で安心な水道水の安定供給を図るために、中野浄水場更新工事、下水道工事及び京都府の道路改良工事に併せた老朽管の布設替工事などが計画的に実施されている。中野浄水場更新工事は、将来を見通した的確な財務分析による計画的かつ効率的な事業推進を期待するものである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 4 億 7,096 万 5 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 5,940 万 1 千円、過年度分損益勘定留保資金 4 億 1,156 万 4 千円で補てんしている。(別表 3-(3) 参照)

3 経営成績（税抜）

損益計算書による経営成績は、次のとおりである。

（決算書 P9 及び 別表 4 参照）

（単位：千円、％）

区 分	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
総 収 益 (A)	1,342,097	1,370,966	660,461	667,378	619,444
総 費 用 (B)	1,496,738	1,535,088	704,256	701,377	704,331
純 損 益	△ 154,641	△ 164,122	△ 43,795	△ 33,999	△ 84,887
比率 (A)/(B)	89.7	89.3	93.8	95.2	87.9

総収益 13 億 4,509 万 7 千円に対して総費用は 14 億 9,673 万 8 千円で、差し引き 1 億 5,464 万 1 千円の純損失となっている。この結果、前年度繰越欠損金 8,497 万 3 千円を加え、当年度未処理欠損金は 2 億 3,961 万 4 千円と増加した。

総収益は、営業収益の給水収益（水道料金）が 5,852 万 9 千円減少したことなどにより、前年度に比べて 2,886 万 9 千円（2.1％）の減少となった。

総費用は、前年度に比べて 3,835 万円（2.5％）減少した。営業費用では原水及び浄水費が 3,474 万 1 千円、配水及び給水費が 1,332 万 1 千円減少し、営業外費用では支払利息が 971 万 1 千円減少している。

有収水量 1 m³当たりの供給単価及び給水原価は、次のとおりである。

（決算書 P24 及び 別表 1 参照）

（単位：円）

区 分	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
供給単価 (A)	175.08	184.41	184.94	184.76	184.17
給水原価 (B)	222.06	231.60	201.68	198.84	216.33
利益 (A)-(B)	△ 46.98	△ 47.19	△ 16.74	△ 14.08	△ 32.16

供給単価は前年度に比べて 9 円 33 銭安く、給水原価は 9 円 54 銭安くなっている。その結果、有収水量 1 m³当たりの赤字額は前年度に比べて 21 銭減少し、46 円 98 銭となった。給水人口の減少とともに、節水意識の向上、節水型家電製品の普及などによって水需要の増加が見込めないことや、施設整備等で減価償却費が大きくなる傾向から、慢性的な赤字経営体質であることを示している。

また、総収支比率は、別表 5 のとおり 89.7％と 11 年連続の純損失となり、経常収支比率も 91.3％で 10 年連続の単年度赤字となった。

4 財政状態（税抜）

貸借対照表による財政状態は、次のとおりである。

（決算書 P14, P15 及び 別表 6～9 参照）

（単位：千円）

区 分		令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度
資 産	固定資産	15,371,684	15,459,696	6,490,968
	流動資産	1,650,912	1,542,027	1,598,707
	計	17,022,596	17,001,723	8,089,675
負 債	固定負債	8,594,318	8,757,121	2,818,459
	流動負債	976,266	891,002	629,946
	繰延収益	3,327,688	3,395,256	831,738
	計	12,898,272	13,043,379	4,280,143
資 本	資 本 金	3,838,481	3,517,860	3,039,502
	剰 余 金	285,843	440,484	770,030
	計	4,124,324	3,958,344	3,809,532
負債資本合計		17,022,596	17,001,723	8,089,675

資産の総額は 170 億 2,259 万 6 千円で、前年度に比べて 2,087 万 3 千円（0.1%）増加している。固定資産は、機械及び装置が 2 億 6,881 万 2 千円減少した一方で、構築物が 6,682 万円、建設仮勘定が 1 億 6,696 万 7 千円増加した。流動資産は、現金預金が 5,549 万 6 千円増加、前払金が 9,215 万 8 千円増加した一方で、未収金が 3,940 万 9 千円減少したことなどによるものである。

流動資産である水道料金の未収金の状況は、次のとおりである。（別表 10 参照）

令和 3 年 3 月 31 日現在

（単位：件、千円）

区 分	令和 2 年度		令和元年度		平成 30 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
未 収 金	43,202	181,100	43,711	171,427	26,181	96,863
不納欠損	128	358	961	1,979	263	468
債権放棄	128	358	961	1,979	263	468
債権消滅等	0	0	0	0	0	0

未収金の総額は 1 億 8,110 万円で、前年度に比べて 967 万 3 千円増加（件数は 509 件減少）している。また、京丹後市債権の管理に関する条例に基づき、債権放棄 128 件、35 万 8 千円の不納欠損を処理した。

負債の総額は 128 億 9,827 万 2 千円で、前年度に比べて 1 億 4,510 万 7 千円減少した。固定負債の減少は、企業債 1 億 6,280 万 3 千円の減によるものであり、流動負債の増加は、未払金が 1,640 万 2 千円減少したものの、一時借入金 1,990 万円、企業債が 2,427 万 9 千円、前受金が 5,780 万円増加したことなどによるものである。

資本の総額は 41 億 2,432 万 4 千円で、前年度に比べて 1 億 6,598 万円（4.2%）増加している。資本金の増加は、利益剰余金が 1 億 5,464 万 1 千円減少（別表 9）したものの、自己資本金が 3 億 2,062 万 1 千円増加（別表 8）したことによるものである。

企業債の状況は、次のとおりである。

（決算書 P26, P32 参照）

（単位：千円）

令和元年度 末残高	令和 2 年度		令和 2 年度 末残高	令和 2 年度 支払利息
	発行額	償還額		
9,376,301	472,400	591,024	9,257,677	134,758

企業債残高は 92 億 5,767 万 7 千円で、前年度に比べ 1 億 1,862 万 4 千円（1.3%）減少した。企業債利息は 1 億 3,475 万 8 千円で、営業収益（税抜）10 億 3,991 万 7 千円に占める割合は 13.0%と、前年度に比べて 0.2 ポイント低下している。（別表 4 参照）

5 むすび

水道事業会計の経営成績は、事業収益 14 億 4,417 万 9 千円に対して事業費用は 15 億 3,685 万 7 千円、差し引き 9,267 万 8 千円事業費用が上回り、11 年連続の当年度純損失となった。また、特別損失を除いた経常収支については 10 年連続の赤字である。従来からの赤字経営体質に加え、令和元年度に行った簡易水道事業の統合によって、より一層厳しい経営状況となっている。

収益面では、少子高齢化及び人口減少による給水人口の減少、節水型家電製品の普及、節水意識の向上などによって水需要の増加が見込めない状況にあり、収益の安定した確保が懸念される。そのような状況の中、令和 2 年度は特に、新型コロナウイルス感染症の影響による経済的負担軽減のため、4 月から 6 月までの 3 か月間の月額基本料金を免除した特例措置を行い、給水収益が大幅に減少した。

費用面では、基幹施設である中野浄水場の更新整備事業や老朽管の布設替工事など、今後も多額の設備投資が必要であり、経営状況はますます厳しいものとなることが予測される。給水原価や有収率などを地区単位で分析することによって、給水人口及び水需要に応じた施設の統廃合や給水エリアの変更が検討され、効率的な事業運営と管理体制が構築されることを期待する。また、災害対策や緊急時の危機管理等の強化といった点にも留意して、不測の事態が生じても将来にわたって水道事業の健全な運営が確保できるよう備える必要があり、維持管理経費等の更なる削減を図るなど一層の努力が望まれる。

水道料金については、令和 2 年度末の未収金の額は 1 億 8,110 万円であった。未収金対策として、従来から年 4 回の給水停止などを実施してきたが、令和 2 年度に関しては新型コロナウイルス感染症の生活への影響を考慮し、給水停止は年 1 回の

実施とした。徴収の見込めない不良債権については、京丹後市債権の管理に関する条例に基づき不納欠損を処理するなど、滞納整理の努力が見られるが、依然として多額の未収金を抱えている。利用者の負担の公平性の確保と経営の健全化を推し進める観点からも適正な債権の管理は極めて重要であり、今後も引き続き滞納者に対する継続的な働きかけや、新型コロナウイルス感染症の状況を見て、可能であれば給水停止等の措置を行うなど、回収に向けた積極的な対応を求めるものである。また、新たな未納者の発生を防ぐため初期の徴収体制を強化するなど、収納率向上のための対策を講じることが必要である。

水道事業は、市民生活や経済活動に不可欠なものである。近年多発する自然災害などへの危機管理、対応は重要な課題であり、限られた職員数で緊急事態にも迅速に対応できる体制づくりにも取り組む必要がある。このためには、経営基盤の確立や効率的かつ合理的な事業運営に一層努められ、より安全で良質な水道水が安定的に市民に供給されるよう期待するものである。

決算審査資料 （水道事業会計）

別表 1	水道事業の概要	14
別表 2	収益的収支予算決算比較（税込）	15
別表 3	資本的収支予算決算比較（税込）	16
別表 4	損益計算書（税抜）	17
別表 5	経営の安定度に関する指標	18
別表 6	資産	19
別表 7	負債	19
別表 8	資本金	20
別表 9	剰余金	20
別表 10	水道料金未収金及び不納欠損額（税込）	21

（注）表中の数値は、基本的に表示数値未満を四捨五入（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

別表1 水道事業の概要

項目 \ 年度	令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
			増減(C) (A-B)	比率(C/B*100)
給 水 件 数 (件)	24,100	24,006	94	0.4%
給 水 人 口 (人)	50,235	50,938	△ 703	△ 1.4%
配 水 量				
年間総配水量 (m³)	7,416,723	7,369,836	46,887	0.6%
一日最大配水量 (m³)	23,023	24,977	△ 1,954	△ 7.8%
一日最小配水量 (m³)	17,527	17,660	△ 133	△ 0.8%
一日平均配水量 (m³)	20,320	20,136	184	0.9%
有 収 水 量				
年間総有収水量 (m³)	5,809,590	5,833,225	△ 23,635	△ 0.4%
有 効 率 (%)	81.04	81.87	△ 0.83	△ 1.0%
有 収 率 (%)	78.33	79.15	△ 0.82	△ 1.0%
供 給 単 価 (円)	175円08銭	184円41銭	△9円33銭	△5.1%
給 水 原 価 (円)	222円06銭	231円60銭	△9円54銭	△4.1%
資 本 費 (円)	123円15銭	125円80銭	△2円65銭	△2.1%
管 路 総 延 長 (km)	785.90	812.52	△ 26.62	△ 3.3%
石綿管総延長 (km)	11.05	14.43	△ 3.38	△ 23.4%
石綿管布設率 (%)	1.4	1.8	△ 0.4	△ 22.2%

- ・給水人口 定住人口による集計
- ・有 効 率 $\text{年間総有効水量} / \text{年間総配水量} \times 100$
浄水場から送られた水が途中で漏水することなく、一般世帯などで有効に使用された水量（漏水量を除いた水量）の割合を示す指標
- ・有効水量 有収水量＋無収水量（メーター不感知分、消火栓使用分、管洗浄分等）
- ・有 収 率 $\text{年間総有収水量} / \text{年間総配水量} \times 100$
浄水場から送られた水がどれだけ料金徴収の基礎となったかを示す指標。数値が高いほど施設効率が良いことを示し、低い場合は漏水、メーターの不感、公共用水、消防用水等いくつかの要因が考えられる。
- ・供給単価 $\text{給水収益} / \text{年間総有収水量}$
有収水量1m³当たりについて、どれだけの収益を得ているかを示す指標。
- ・給水原価 $(\text{経常費用} - \text{長期前受金戻入} - \text{受託工事費}) / \text{年間総有収水量}$
有収水量1m³作るために、どれだけの費用がかかっているかを示す指標。
- ・資 本 費 $(\text{支払利息} + \text{減価償却費} - \text{長期前受金戻入}) / \text{年間総有収水量}$

別 表 2 水道事業収益の収支予算決算比較（税込）

（１）収 入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②－①	収入率 ②／①
水道事業収益	1,442,478	1,444,179	1,701	100.1
営業収益	1,133,227	1,141,825	8,598	100.8
給水収益	1,110,094	1,118,849	8,755	100.8
その他営業収益	23,133	22,976	△ 157	99.3
営業外収益	309,251	302,354	△ 6,897	97.8
受取利息及び配当金	303	339	36	111.9
府補助金	19,235	19,235	0	100.0
他会計補助金	99,495	99,495	0	100.0
長期前受金戻入	178,294	179,427	1,133	100.6
雑収益	1,924	3,858	1,934	200.5
消費税及び地方消費税還付金	10,000	0	△ 10,000	0.0

（２）支 出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	不用額 ①－②	執行率 ②／①
水道事業費用	1,682,121	1,536,857	145,264	91.4
営業費用	1,504,259	1,371,195	133,064	91.2
原水及び浄水費	461,045	370,000	91,045	80.3
配水及び給水費	147,352	122,208	25,144	82.9
業務費	69,298	60,797	8,501	87.7
総係費	59,375	51,893	7,482	87.4
減価償却費	761,041	760,149	892	99.9
資産減耗費	6,148	6,148	0	100.0
営業外費用	140,626	138,426	2,200	98.4
支払利息及び企業債取扱諸費	136,317	134,757	1,560	98.9
雑支出	1,050	410	640	39.0
消費税及び地方消費税	3,259	3,259	0	100.0
特別損失	27,236	27,236	0	100.0
固定資産売却損	27,236	27,236	0	100.0
予備費	10,000	0	10,000	0.0
予備費	10,000	0	10,000	0.0

別表3 水道事業資本の収支予算決算比較（税込）

（1）収 入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②－①	収入率 ②／①
資本の収入	1,376,794	① 809,819	△ 566,975	58.8
加入金	12,707	11,886	△ 821	93.5
加入金	12,707	11,886	△ 821	93.5
企業債	840,300	452,500	△ 387,800	53.8
企業債	840,300	452,500	△ 387,800	53.8
補助金	7,663	7,663	0	100.0
府補助金	7,663	7,663	0	100.0
他会計補助金	0	0	0	—
出資金	514,821	320,621	△ 194,200	62.3
他会計出資金	514,821	320,621	△ 194,200	62.3
工事分担金	0	15,846	15,846	—
工事分担金	0	15,846	15,846	—
固定資産売却代金	1,303	1,303	0	100.0
固定資産売却代金	1,303	1,303	0	100.0

（2）支 出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	翌年度 繰越額③	不用額 ①－②－③	執行率 ②／①
資本の支出	2,071,086	② 1,280,784	538,414	251,888	61.8
建設改良費	1,480,061	689,760	538,414	251,887	46.6
固定資産取得費	20,992	8,011	0	12,981	38.2
施設改良事業費	822,888	490,782	209,464	122,642	59.6
中野浄水場更新整備事業費	636,181	190,967	328,950	116,264	30.0
企業債償還金	591,025	591,024	0	1	100.0
企業債償還金	591,025	591,024	0	1	100.0

（3）資本の収入額が資本の支出額に対して不足する額

（単位：千円）

項 目	金 額	備 考
資本の収支差引額 ①－②	△ 470,965	
補填財源	470,965	
消費税及び地方消費税資本の収支調整額	59,401	
繰越工事資金	0	
過年度分損益勘定留保資金	411,564	
当年度分損益勘定留保資金	0	
利益剰余金	0	

別表 4 水道事業損益計算書（税抜）

（単位：千円、％）

年 度 項 目	令和2年度 ①	令和元年度 ②	対 前 年 比	
			金 額③ (①-②)	比率(③/②*100)
水道事業収益 (A)	1,342,097	1,370,966	△ 28,869	△ 2.1
営業収益 (C)	1,039,917	1,096,399	△ 56,482	△ 5.2
給水収益	1,017,165	1,075,694	△ 58,529	△ 5.4
その他営業収益	22,752	20,705	2,047	9.9
営業外収益	302,180	274,567	27,613	10.1
受取利息	339	368	△ 29	△ 7.9
府補助金	19,235	34,285	△ 15,050	△ 43.9
他会計補助金	99,495	65,685	33,810	51.5
長期前受金戻入	179,427	172,075	7,352	4.3
雑収益	3,684	2,154	1,530	71.0
水道事業費用 (B)	1,496,738	1,535,088	△ 38,350	△ 2.5
営業費用	1,334,251	1,378,140	△ 43,889	△ 3.2
原水及び浄水費	341,880	376,621	△ 34,741	△ 9.2
配水及び給水費	118,392	131,713	△ 13,321	△ 10.1
業務費	56,745	53,848	2,897	5.4
総係費	50,937	49,687	1,250	2.5
減価償却費	760,149	761,428	△ 1,279	△ 0.2
資産減耗費	6,148	4,843	1,305	26.9
その他営業費用	0	0	0	—
営業外費用	135,252	144,899	△ 9,647	△ 6.7
支払利息 (D)	134,758	144,469	△ 9,711	△ 6.7
雑支出	494	430	64	14.9
特別損失	27,235	12,049	15,186	126.0
過年度損益修正損	0	0	0	—
資産減耗費	0	0	0	—
その他特別損失	27,235	12,049	15,186	126.0
当年度純損益 (A)-(B)	△ 154,641	△ 164,122	9,481	△ 5.8
総収支比率 (A)/(B)	89.7	89.3	0.4	
支払利息/営業収益 (D)/(C)	13.0	13.2	△ 0.2	

別表5 水道事業経営の安定度に関する指標

(単位：％)

年度 項目		令和2年度	令和元年度	平成30年度	備 考
総収支比率		89.7	89.3	93.8	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ 経営収支の均衡度を総収益対費用の関係で見る指標。高い数値の方が好ましい。この率が100%未満であれば、純損失を生じている。
	類似団体全国 平均値	—	111.6	105.7	
経常収支比率		91.3	90.0	93.8	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ 特別損益を除いた経常的な収支の関係を見る指標。高い数値の方が好ましい。100%を超える場合は単年度黒字を、100%未満は単年度赤字を表す。
	類似団体全国 平均値	—	111.4	105.8	
営業収支比率		77.9	79.6	96.7	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事費収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$ 通常の営業活動に要する費用を、営業活動に必要なものとして徴収している給水収益等の営業収益で、どの程度賄っているかを示す指標。高い数値の方が好ましい。100%未満の場合は健全経営とはいえない。
	類似団体全国 平均値	—	99.2	95.0	

別表 6

水道事業資産

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
固定資産	土 地	534,598	563,136	△ 28,538	△ 5.1
	建 物	551,569	573,775	△ 22,206	△ 3.9
	構 築 物	10,856,224	10,789,404	66,820	0.6
	機 械 及 び 装 置	2,173,385	2,442,197	△ 268,812	△ 11.0
	車 両 運 搬 具	3,517	4,826	△ 1,309	△ 27.1
	工具器具及び備品	44,793	45,727	△ 934	△ 2.0
	建 設 仮 勘 定	1,207,598	1,040,631	166,967	16.0
	小 計	15,371,684	15,459,696	△ 88,012	△ 0.6
流動資産	現 金 預 金	1,307,483	1,251,987	55,496	4.4
	未 収 金	152,425	191,834	△ 39,409	△ 20.5
	貯 蔵 品	9,722	9,082	640	7.0
	前 払 金	181,282	89,124	92,158	103.4
	その他流動資産	0	0	0	—
	小 計	1,650,912	1,542,027	108,885	7.1
合 計		17,022,596	17,001,723	20,873	0.1

別表 7

水道事業負債

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
固定負債	企 業 債	8,568,874	8,731,677	△ 162,803	△ 1.9
	引 当 金	25,444	25,444	0	0.0
	その他固定負債	0	0	0	—
	小 計	8,594,318	8,757,121	△ 162,803	△ 1.9
流動負債	一 時 借 入 金	73,500	53,600	19,900	37.1
	企 業 債	615,303	591,024	24,279	4.1
	未 払 金	216,393	232,795	△ 16,402	△ 7.0
	前 受 金	57,800	0	57,800	皆増
	引 当 金	12,770	11,987	783	6.5
	その他流動負債	500	1,596	△ 1,096	△ 68.7
	小 計	976,266	891,002	85,264	9.6
繰延収益	長 期 前 受 金	4,433,852	4,323,718	110,134	2.5
	収益化累計額	△ 1,106,164	△ 928,462	△ 177,702	19.1
	小 計	3,327,688	3,395,256	△ 67,568	△ 2.0
合 計 (ア)		12,898,272	13,043,379	△ 145,107	△ 1.1

別表 8 水 道 事 業 資 本 金

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
自己資本金	自 己 資 本 金	3,838,481	3,517,860	320,621	9.1
借入資本金	企 業 債	—	—	—	—
合 計 (イ)		3,838,481	3,517,860	320,621	9.1

別表 9 水 道 事 業 剰 余 金

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C) (A-B)	比率(C/B*100)
資 本 剰 余 金	再 評 価 積 立 金	1,972	1,972	0	0.0
	加 入 金	17,883	17,883	0	0.0
	補 助 金	67,948	67,948	0	0.0
	受 贈 財 産 評 価 額	267,845	267,845	0	0.0
	寄 附 金	3,243	3,243	0	0.0
	工 事 負 担 金	35,637	35,637	0	0.0
	補 償 金	—	—	—	—
	小 計	394,528	394,528	0	0.0
利 益 剰 余 金	減 債 積 立 金	3,600	3,600	0	0.0
	建 設 改 良 積 立 金	127,328	127,328	0	0.0
	当年度未処分利益剰余金	△ 239,613	△ 84,972	△ 154,641	△ 182.0
	(うち当年度純利益)	(△ 154,641)	(△ 164,122)	(9,481)	(5.8)
	小 計	△ 108,685	45,956	△ 154,641	△ 336.5
合 計 (ウ)		285,843	440,484	△ 154,641	△ 35.1

資 本 合 計 (イ)+(ウ)	4,124,324	3,958,344	165,980	4.2
負 債 資 本 合 計 (ア)+(イ)+(ウ)	17,022,596	17,001,723	20,873	0.1

別表 10 水道料金未収金及び不納欠損額（税込）

令和3年3月31日現在

（単位：円、件）

	水 道 料 金 未 収 金				不 納 欠 損			
	令和2年度		令和元年度		令和2年度		令和元年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
令和2年度	25,670	111,820,280			7	6,207		
令和元年度	1,100	4,483,538	26,020	101,736,391	10	13,667	5	17,401
平成30年度	925	4,540,700	1,102	5,251,825	4	15,227	0	0
平成29年度	815	3,171,247	923	3,649,465	5	16,957	1	2,104
平成28年度	797	3,393,299	882	3,795,656	32	140,444	0	0
平成27年度	792	3,370,478	873	3,768,882	12	32,987	2	2,792
平成26年度	836	3,369,581	893	3,573,334	0	0	33	127,831
平成25年度	852	3,317,226	899	3,464,006	3	2,850	32	34,750
平成24年度	1,168	4,521,950	1,254	4,784,339	0	0	39	43,710
平成23年度	1,191	4,387,003	1,260	4,684,347	3	2,850	79	202,380
平成22年度	1,608	5,815,676	1,722	6,304,063	25	44,870	115	231,410
平成21年度	1,423	5,036,567	1,523	5,389,470	24	66,790	111	154,930
平成20年度	1,055	3,629,009	1,107	3,815,536	3	15,450	121	220,210
平成19年度	805	3,199,818	862	3,359,685	0	0	83	140,130
平成18年度	714	2,544,922	751	2,634,122	0	0	76	133,870
平成17年度	482	1,962,320	494	1,999,884	0	0	53	81,750
平成16年度	372	1,490,305	390	1,588,583	0	0	15	33,420
平成15年度	541	2,628,958	595	2,811,219	0	0	40	96,711
平成14年度	498	2,264,059	527	2,393,771	0	0	14	27,900
平成13年度	409	1,497,589	419	1,539,400	0	0	45	135,035
平成12年度	288	1,097,815	294	1,125,105	0	0	27	83,010
平成11年度	243	967,439	254	1,008,713	0	0	21	49,910
平成10年度	164	673,062	181	736,044	0	0	19	64,900
平成 9 年度	172	696,385	172	696,385	0	0	12	50,585
平成 8 年度	124	523,575	129	534,973	0	0	7	30,595
平成 7 年度	75	370,559	83	393,080	0	0	0	0
平成 6 年度	55	179,946	65	199,832	0	0	0	0
平成 5 年度	28	146,300	37	188,900	0	0	11	14,000
合 計	43,202	181,099,606	43,711	171,427,010	128	358,299	961	1,979,334

京丹後市下水道事業会計

1 事業の概況

事業の概要は、別表 11 のとおりである。

事業の実績を前年度と比べると、処理区域内人口は 39,285 人で 127 人（0.3%）、水洗化人口は 27,532 人で 425 人（1.6%）それぞれ増加している。

汚水処理水量についても 3,248,169 m³で、106,758 m³（3.4%）の増加となっている。

新規接続件数の状況は、次のとおりである。

（単位：件）

区 分	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度
新規接続件数	305	382	391
公共下水道	178	243	229
特定環境保全公共下水道	54	46	69
農業集落排水処理施設	13	23	21
漁業集落排水処理施設	0	0	0
浄化槽整備	60	70	72

新規接続件数は 305 件で、前年度と比較して 77 件の減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、未接続世帯への接続推進が進まなかったことなどが要因である。

2 予算執行状況（税込）

（1）収益的収入及び支出

収益的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

（決算書 P4, P5 及び 別表 12 参照）

（単位：千円、%）

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
下水道事業収益	2,514,921	2,559,008	44,087	101.8
営業収益	537,978	553,131	15,153	102.8
営業外収益	1,973,564	1,994,054	20,490	101.0
特別利益	3,379	11,823	8,444	349.9

収益的収入である下水道事業収益は、予算額 25 億 1,492 万 1 千円に対して決算額 25 億 5,900 万 8 千円で、収入率は 101.8%となっている。これは、下水道使用料が 1,515 万 3 千円予算額を上回ったことと、長期前受金戻入が 2,224 万 9 千円上回ったことなどによるものである。

収益的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P4, P5 及び 別表 12 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
下水道事業費用	2,730,942	2,538,214	192,728	92.9
営業費用	2,312,048	2,147,261	164,787	92.9
営業外費用	371,798	371,906	△ 108	100.0
特別損失	28,096	19,047	9,049	67.8
予備費	19,000	0	19,000	0.0

収益的支出である下水道事業費用は、予算額 27 億 3,094 万 2 千円に対して決算額 25 億 3,821 万 4 千円で、執行率は 92.9%である。不用額の主なものは、営業費用で処理場費 7,473 万 7 千円、資産減耗費 4,266 万円である。営業外費用で予算額を超えての経費の執行となっているが、現金の支出を伴わない執行である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 13 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
資本的収入	2,880,125	1,655,824	△ 1,224,301	57.5
負担金	96,822	88,465	△ 8,357	91.4
企業債	1,950,000	1,068,300	△ 881,700	54.8
補助金	708,703	373,857	△ 334,846	52.8
出資金	124,600	124,600	0	100.0
固定資産売却代金	0	602	602	—

資本的収入は、予算額 28 億 8,012 万 5 千円に対して決算額 16 億 5,582 万 4 千円で、収入率は 57.5%である。主な要因は、予算額に対して企業債が 8 億 8,170 万円、補助金が 3 億 3,484 万 6 千円下回ったことによるものである。

資本的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 13 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	3,538,873	2,468,305	709,933	360,635	69.7
建設改良費	2,142,010	1,071,445	709,933	360,632	50.0
企業債償還金	1,396,863	1,396,860		3	100.0

資本的支出は、予算額 35 億 3,888 万 3 千円に対して決算額 24 億 6,830 万 5 千円で、7 億 993 万 3 千円を翌年度に繰り越し、執行率は 69.7%となった。主な不用額は、管渠整備事業費 3 億 462 万 3 千円である。翌年度繰越分の内訳は、固定資産取得費、管渠整備事業費、ポンプ場改良事業費である。

主な施設整備の状況は、次のとおりである。

(決算書 P19～P26 参照)

(単位：千円)

区 分		内 容	金 額
建設工事 (500 万 円以上)	管渠整備 事 業	善王寺地区管渠布設工事 その 22	15,305
		浅茂川地区管渠布設工事 その 3	50,497
		善王寺地区管渠布設工事 その 24	16,713
		網野地区管渠布設工事 その 48	25,058
		善王寺地区管渠布設工事 その 26	34,861
		長岡地区管渠布設工事 その 41	27,523
		長岡地区管渠布設工事 その 42	18,342
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事 その 1	35,147
		浅茂川地区管渠布設工事 その 4	32,735
		網野処理区 和田野統合管渠布設工事 その 2	12,613
		菅地区管渠布設工事 その 41	7,723
		長岡地区管渠布設工事 その 43	42,372
		浅茂川地区管渠布設工事 その 6	61,909
		浅茂川地区管渠布設工事 その 5	49,875
		浅茂川地区管渠舗装復旧工事 その 1	8,624
		網野地区マンホールポンプ設備工事 その 1	15,322
		浅茂川地区管渠舗装復旧工事 その 2	7,799
		長岡地区マンホールポンプ設備工事 その 3	13,819
		長岡地区マンホールポンプ設備工事 その 4	13,184
	浄 化 槽 整備事業	令和 2 年度 京丹後市浄化槽設置工事 その 4	6,378
		令和 2 年度 京丹後市浄化槽設置工事 その 2	5,638
		令和 2 年度 京丹後市浄化槽設置工事 その 12	6,007
		令和 2 年度 京丹後市浄化槽設置工事 その 14	5,669
		令和 2 年度 京丹後市浄化槽設置工事 その 15	5,902
改良工事 (500 万 円以上)	ポンプ場 改良事業	令和元年度 京丹後市峰山・大宮汚水中継ポンプ 場長寿命化対策工事（協定事業）	65,190
		峰山・大宮第 1 汚水中継ポンプ場污水ポンプ改修 工事	8,470

	処 理 場	令和元年度 京丹後市峰山・大宮浄化センター長 寿命化対策工事（協定事業）	178,900
	改良事業	丹後処理区マンホールポンプ中央監視システム改 修工事	6,710

快適な生活環境及び公共用水域の水質を保全するため、管渠及び浄化槽の整備事業を行い、また、下水道施設の長寿命化のための改良事業などが計画的に実施されている。引き続き、令和10年度の完成を目指して、的確な財務分析による計画的かつ効率的な事業推進を期待するものである。

なお、資本金収入額が資本金支出額に対して不足する額8億1,248万1千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本金の収支調整額5,164万3千円、引継金等8,735万4千円、当年度分損益勘定留保資金6億7,348万3千円で補てんしている。（別表13-(3)参照）

3 経営成績（税抜）

損益計算書による経営成績は、次のとおりである。

（決算書 P9 及び 別表 14 参照）

（単位：千円、％）

区 分	令和2年度	令和元年度
総 収 益 (A)	2,465,800	—
総 費 用 (B)	2,485,956	—
純 損 益	△ 20,156	—
比率 (A)/(B)	99.2	—

総収益24億6,580万円に対して総費用は24億8,595万6千円で、差し引き2,015万6千円の純損失となっており、当年度未処理欠損金は25億3,032万6千円となった。（別表19参照）

総収益の主なものは、営業収益の下水道使用料が5億287万5千円、営業外収益の他会計補助金が11億5,540万円、長期前受金戻入が7億9,459万4千円であった。

総費用の主なものは、営業費用の処理場費が3億2,566万1千円、浄化槽費が1億3,085万9千円、減価償却費が13億9,759万3千円、営業外費用では支払利息が3億5,172万8千円であった。

有収水量1m³当たりの使用量単価及び処理原価は、次のとおりである。

（決算書 P27 及び 別表 1 参照）

（単位：円）

区 分	令和2年度	令和元年度
使用料単価 (A)	145.90	—
処 理 原 価 (B)	237.50	—
利益 (A)-(B)	△ 91.60	—

使用料単価は 145 円 90 銭、処理原価は 237 円 50 銭となった。その結果、有収水量 1 m³当たりの赤字額は 91 円 60 銭となった。

また、総収支比率は、別表 15 のとおり 99.2%、経常収支比率も 99.5%となった。

4 財政状態（税抜）

貸借対照表による財政状態は、次のとおりである。

（決算書 P12, P13 及び 別表 16～19 参照）

（単位：千円）

区 分		令和 2 年度	令和元年度
資 産	固定資産	40,313,616	—
	流動資産	644,801	—
	計	40,958,417	—
負 債	固定負債	22,024,439	—
	流動負債	1,870,448	—
	繰延収益	17,845,520	—
	計	41,740,407	—
資 本	資 本 金	795,279	—
	剰 余 金	△ 1,577,269	—
	計	△ 781,990	—
負債資本合計		40,958,417	—

資産の総額は 409 億 5,841 万 7 千円である。固定資産は、構築物が 318 億 4,257 万 8 千円、機械及び装置が 44 億 1,495 万 1 千円、建物が 23 億 5,843 万 2 千円、土地が 16 億 9,538 万 5 千円などによる。流動資産は、現金預金が 2 億 9,984 万 8 千円、前払金が 2 億 3,120 万 8 千円、未収金が 1 億 1,132 万 3 千円などである。

下水道使用料及び受益者分担金の未収金の状況は、次のとおりである。（別表 20, 21 参照）

令和 3 年 3 月 31 日現在

（単位：件、千円）

区 分	令和 2 年度		令和元年度	
	件数	金額	件数	金額
下水道使用料未収金	14,485	60,440	—	—
不納欠損	306	919	—	—
受益者分担金未収金	141	5,772	—	—
不納欠損	9	226	—	—

下水道使用料の未収金総額は 14,485 件、6,044 万円であった。また、京丹後市債権の管理に関する条例に基づき、債権放棄 306 件、91 万 9 千円の不納欠損を処理した。受益者分担金の未収金総額は 141 件、577 万 2 千円で、不納欠損処理は 9 件、22 万 6 千円であった。

負債の総額は 417 億 4,040 万 7 千円である。固定負債は、企業債 220 億 2,443 万 9 千円であり、流動負債は、企業債が 14 億 6,608 万 9 千円、未払金が 1 億 5,948 万 8 千円、一時借入金が 1 億 3,770 万円などである。

資本の総額はマイナス 7 億 8,199 万円で、自己資本金が 7 億 9,527 万 9 千円に対し、利益剰余金は 25 億 3,032 万 6 千円の赤字決算である。

企業債の状況は、次のとおりである。

(決算書 P30, P36 参照)

(単位：千円)

令和元年度 末残高	令和 2 年度		令和 2 年度 末残高	令和 2 年度 支払利息
	発行額	償還額		
23,658,889	1,366,200	1,396,860	23,628,229	351,724

企業債残高は 236 億 2,822 万 9 千円で、前年度に比べ 3,066 万円 (0.1%) の減少となっている。企業債利息は 3 億 5,172 万 4 千円で、営業収益 (税抜) 5 億 287 万 5 千円に占める割合は 69.9%と、非常に大きな割合となっている。

5 むすび

令和 2 年度は、令和 2 年 4 月 1 日をもって特別会計であった集落排水事業、公共下水道事業、浄化槽整備事業が統合され、地方公営企業法における下水道事業としての適用を受ける初年度の決算であった。

下水道事業会計の経営成績は、事業収益 24 億 6,580 万円に対して事業費用は 24 億 8,595 万 6 千円、差し引き 2,015 万 6 千円の当年度純損失となった。

収益面では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、未接続世帯への接続推進活動が実施できずに、例年に比べて接続率が伸びなかったが、今後は下水道使用料の安定した確保を目指し、新規接続の推進を図ることが求められる。費用面では、処理区域の拡大に伴う管渠等の整備工事など、今後も多額の設備投資が必要であり、経営状況はますます厳しいものとなることが予測される。また、効率的な汚水処理のため、施設の統廃合等が検討され、効率的な事業運営と管理体制が構築されることを期待する。

下水道使用料については、令和 2 年度末の未収金は 6,044 万円であった。未収金対策として、水道料金と同時に督促状、催告書の発送や分納などを実施した。また、徴収の見込めない不良債権について京丹後市債権の管理に関する条例に基づき不納欠損を処理するなど、滞納整理をされている。利用者の負担の公平性の確保と経営の健全化を推し進める観点からも適正な債権の管理は極めて重要であり、今後も引き続き滞納者に対する継続的な働きかけや給水停止等の措置を行うなど、回収に向けた積極的な対応を求めるものである。また、新たな未納者の発生を防ぐため初期の徴収体制を強化するなど、収納率向上のための対策を講じることが必要である。

下水道事業は、快適な市民生活環境や公共用水域の水質保全に不可欠なものであ

る。令和 10 年度の事業完成を目指し、経営基盤の確立や効率的かつ合理的な事業運営に一層努められるよう期待するものである。

決算審査資料 （下水道事業会計）

別表11	下水道事業の概要	34
別表12	収益的収支予算決算比較（税込）	35
別表13	資本的収支予算決算比較（税込）	36
別表14	損益計算書（税抜）	37
別表15	経営の安定度に関する指標	38
別表16	資産	39
別表17	負債	39
別表18	資本金	40
別表19	剰余金	40
別表20	下水道使用料未収金及び不納欠損額（税込）	41
別表21	受益者分担金未収金及び不納欠損額（税込）	41

（注）表中の数値は、基本的に表示数値未満を四捨五入（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

別表11

下水道事業の概要

項目 \ 年度	令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
			増減(C) (A-B)	比率(C/B*100)
行政区域内人口(人)	53,303	54,007	△ 704	△ 1.3%
処理区域内人口(人)	39,285	39,158	127	0.3%
普及率(%)	73.7%	72.5%	1.2%	—
水洗化人口(人)	27,532	27,107	425	1.6%
接続率(%)	70.1%	69.2%	0.9%	—
排水処理水量(m³)	3,248,169	3,141,211	106,958	3.4%
使用料単価(円)	145円90銭	—	—	—
処理原価(円)	237円50銭	—	—	—
施設利用率(%)	41.1	—	—	—
有収率(%)	106.1	—	—	—

- ・行政区域内人口 年度末現在における住民基本台帳に登録された人口
- ・処理区域内人口 下水道が整備され処理可能な区域の人口（個人等管理浄化槽人口を除く）
- ・普及率 $\text{処理区域内人口} / \text{行政区域内人口} \times 100$
（行政区域内人口に対する処理区域内人口の割合を表す指標）
- ・水洗化人口 下水道処理区域内において下水道に接続し、使用している人口
（個人等管理浄化槽人口を除く）
- ・接続率 $\text{水洗化人口} / \text{行政区域内人口} \times 100$
- ・使用料単価 $\text{下水道使用料} / \text{年間総有収水量}$
（有収水量1mあたり、どれだけの収益を得ているかを表す指標）
- ・処理原価 $\text{経常費用} / \text{年間総汚水処理量}$
（有収水量1mあたり、どれだけの費用がかかっているかを表す指標）
- ・施設利用率 $\text{晴天時1日平均処理水量} / \text{晴天時現在処理能力} \times 100$
（施設の1日平均の利用状況を表す指標）
- ・有収率 $\text{年間総有収水量} / \text{年間総配水量} \times 100$
（処理した汚水のうち、使用料徴収の対象となる有収水の割合を示す指標）

別 表 12 下水道事業収益の収支予算決算比較（税込）

（１）収 入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②－①	収入率 ②／①
下水道事業収益	2,514,921	2,559,008	44,087	101.8
営業収益	537,978	553,131	15,153	102.8
下水道使用料	537,603	552,819	15,216	102.8
その他営業収益	375	312	△ 63	83.2
営業外収益	1,973,564	1,994,054	20,490	101.0
受取利息及び配当金	0	5	5	－
他会計補助金	1,155,400	1,155,400	0	100.0
長期前受金戻入	772,345	794,594	22,249	102.9
雑収益	719	1,161	442	161.5
消費税及び地方消費税還付金	45,100	42,894	△ 2,206	95.1
特別利益	3,379	11,823	8,444	349.9
その他特別利益	3,379	11,823	8,444	349.9

（２）支 出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	不用額 ①－②	執行率 ②／①
下水道事業費用	2,730,942	2,538,214	192,728	92.9
営業費用	2,312,048	2,147,261	164,787	92.9
管渠費	107,418	89,931	17,487	83.7
ポンプ場費	42,904	34,847	8,057	81.2
処理場費	429,229	354,492	74,737	82.6
浄化槽費	146,224	141,803	4,421	97.0
水洗化普及費	7,001	5,565	1,436	79.5
業務費	17,250	16,120	1,130	93.4
総係費	44,341	43,368	973	97.8
減価償却費	1,411,480	1,397,594	13,886	99.0
資産減耗費	106,201	63,541	42,660	59.8
営業外費用	371,798	371,906	△ 108	100.0
支払利息及び企業債取扱諸費	370,838	351,728	19,110	94.8
雑支出	960	20,178	△ 19,218	2,101.9
特別損失	28,096	19,047	9,049	67.8
その他特別損失	28,096	19,047	9,049	67.8
予備費	19,000	0	19,000	0.0
予備費	19,000	0	19,000	0.0

別表13 下水道事業資本の収支予算決算比較（税込）

（1）収 入

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	増減額 ②－①	収入率 ②／①
資本の収入	2,880,125	Ⓐ 1,655,824	△ 1,224,301	57.5
負担金	96,822	88,465	△ 8,357	91.4
受益者負担金	96,822	88,465	△ 8,357	91.4
企業債	1,950,000	1,068,300	△ 881,700	54.8
企業債	1,950,000	1,068,300	△ 881,700	54.8
補助金	708,703	373,857	△ 334,846	52.8
国庫補助金	703,785	368,674	△ 335,111	52.4
府補助金	4,918	5,183	265	105.4
出資金	124,600	124,600	0	100.0
他会計出資金	124,600	124,600	0	100.0
固定資産売却代金	0	602	602	—
固定資産売却代金	0	602	602	—

（2）支 出

（単位：千円、％）

科 目 \ 項 目	予 算 額 ①	決 算 額 ②	翌年度 繰越額③	不用額 ①－②－③	執行率 ②／①
資本の支出	3,538,873	Ⓑ 2,468,305	709,933	360,635	69.7
建設改良費	2,142,010	1,071,445	709,933	360,632	50.0
事務費	43,970	38,399		5,571	87.3
固定資産取得費	1,435	633	930	△ 128	44.1
管渠整備事業費	1,623,963	614,022	705,318	304,623	37.8
管渠改良事業費	46,474	26,900		19,574	57.9
ポンプ場改良事業費	83,710	75,860	3,685	4,165	90.6
処理場改良事業費	213,428	197,070		16,358	92.3
浄化槽整備事業費	129,030	118,561		10,469	91.9
企業債償還金	1,396,863	1,396,860	0	3	100.0
企業債償還金	1,396,863	1,396,860		3	100.0

（3）資本の収入額が資本の支出額に対して不足する額

（単位：千円）

項 目	金 額	備 考
資本の収支差引額 Ⓐ－Ⓑ	△ 812,481	
補てん財源	812,481	
消費税及び地方消費税資本の収支調整額	51,644	
引継金	87,354	
当年度分損益勘定留保資金	673,483	

別表14

下水道事業損益計算書（税抜）

（単位：千円、％）

年 度 項 目	令和2年度 ①	令和元年度 ②	対 前 年 比	
			金 額③ (①-②)	比率(③/②*100)
下水道事業収益 (A)	2,465,800	—	2,465,800	—
営業収益 (C)	502,875	—	502,875	—
下水道使用料	502,563	—	502,563	—
その他営業収益	312	—	312	—
営業外収益	1,951,102	—	1,951,102	—
受取利息	5	—	5	—
他会計補助金	1,155,400	—	1,155,400	—
長期前受金戻入	794,594	—	794,594	—
雑収益	1,103	—	1,103	—
特別利益	11,823	—	11,823	—
その他特別利益	11,823	—	11,823	—
下水道事業費用 (B)	2,485,956	—	2,485,956	—
営業費用	2,095,010	—	2,095,010	—
管渠費	82,484	—	82,484	—
ポンプ場費	31,686	—	31,686	—
処理場費	325,661	—	325,661	—
浄化槽費	130,859	—	130,859	—
水洗化普及費	5,514	—	5,514	—
業務費	14,655	—	14,655	—
総係費	43,017	—	43,017	—
減価償却費	1,397,593	—	1,397,593	—
資産減耗費	63,541	—	63,541	—
その他営業費用	0	—	0	—
営業外費用	371,898	—	371,898	—
支払利息 (D)	351,728	—	351,728	—
雑支出	20,170	—	20,170	—
特別損失	19,048	—	19,048	—
過年度損益修正損	0	—	0	—
資産減耗費	0	—	0	—
その他特別損失	19,048	—	19,048	—
当年度純損益 (A)-(B)	△ 20,156	—	△ 20,156	—
総収支比率 (A)/(B)	99.2	—	99.2	
支払利息/営業収益 (D)/(C)	69.9	—	69.9	

別表15 下水道事業経営の安定度に関する指標

(単位：％)

年度 項目		令和2年度	令和元年度	平成30年度	備 考
総収支比率		99.2	—	—	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ 経営収支の均衡度を総収益対費用の関係で見る指標。高い数値の方が好ましい。この率が100%未満であれば、純損失を生じている。
	類似団体全国平均値	—	—	—	
経常収支比率		99.5	—	—	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ 特別損益を除いた経常的な収支の関係を見る指標。高い数値の方が好ましい。100%を超える場合は単年度黒字を、100%未満は単年度赤字を表す。
	類似団体全国平均値	—	—	—	
営業収支比率		24.0	—	—	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事費収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$ 通常の営業活動に要する費用を、営業活動に必要なものとして徴収している給水収益等の営業収益で、どの程度賄っているかを示す指標。高い数値の方が好ましい。100%未満の場合は健全経営とはいえない。
	類似団体全国平均値	—	—	—	

別表 16

下 水 道 事 業 資 産

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C)	比率(C/B*100)
固定資産	土 地	1,695,385	—	—	—
	建 物	2,358,432	—	—	—
	構 築 物	31,842,578	—	—	—
	機 械 及 び 装 置	4,414,951	—	—	—
	車 両 運 搬 具	341	—	—	—
	工具器具及び備品	1,929	—	—	—
	建 設 仮 勘 定	0	—	—	—
	小 計	40,313,616	—	—	—
流動資産	現 金 預 金	299,848	—	—	—
	未 収 金	111,323	—	—	—
	貯 蔵 品	2,422	—	—	—
	前 払 金	231,208	—	—	—
	その他流動資産	0	—	—	—
	小 計	644,801	—	—	—
合 計		40,958,417	—	—	—

別表 17

下 水 道 事 業 負 債

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C)	比率(C/B*100)
固定負債	企 業 債	22,024,439	—	—	—
	引 当 金	0	—	—	—
	その他固定負債	0	—	—	—
	小 計	22,024,439	—	—	—
流動負債	一 時 借 入 金	137,700	—	—	—
	企 業 債	1,466,089	—	—	—
	未 払 金	159,488	—	—	—
	前 受 金	93,374	—	—	—
	引 当 金	8,979	—	—	—
	その他流動負債	4,818	—	—	—
	小 計	1,870,448	—	—	—
繰延収益	長 期 前 受 金	18,606,586	—	—	—
	収益化累計額	△ 761,066	—	—	—
	小 計	17,845,520	—	—	—
合 計 (ア)		41,740,407	—	—	—

別表18

下水道事業資本金

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C)	比率(C/B*100)
自己資本金	自 己 資 本 金	795,279	—	—	—
借入資本金	企 業 債	—	—	—	—
合 計 (イ)		795,279	—	—	—

別表19

下水道事業剰余金

(単位：千円、%)

年 度 項 目		令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	対 前 年 比	
				金 額(C)	比率(C/B*100)
資 本 剰 余 金	再 評 価 積 立 金	—	—	—	—
	受 益 者 負 担 金	—	—	—	—
	補 助 金	687,811	—	—	—
	受 贈 財 産 評 価 額	265,246	—	—	—
	寄 附 金	—	—	—	—
	工 事 負 担 金	—	—	—	—
	小 計	953,057	—	—	—
利 益 剰 余 金	減 債 積 立 金	—	—	—	—
	建 設 改 良 積 立 金	—	—	—	—
	当年度未処分利益剰余金	△ 2,530,326	—	—	—
	(うち当年度純利益)	(20,157)	—	—	—
	小 計	△ 2,530,326	—	—	—
合 計 (ウ)		△ 1,577,269	—	—	—

資 本 合 計 (イ)+(ウ)	△ 781,990	—	—	—
負 債 資 本 合 計 (ア)+(イ)+(ウ)	40,958,417	—	—	—

別表20 下水道使用料未収金及び不納欠損額（税込）

令和3年3月31日現在

（単位：円、件）

	未 収 金				不 納 欠 損			
	令和2年度		令和元年度		令和2年度		令和元年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
令和2年度	11,893	49,097,559			0	0		
令和元年度	483	1,837,903	—	—	2	2,324	—	—
平成30年度	439	1,771,062	—	—	1	10,062	—	—
平成29年度	386	1,426,345	—	—	1	7,062	—	—
平成28年度	271	1,254,515	—	—	0	0	—	—
平成27年度	238	1,061,006	—	—	34	135,572	—	—
平成26年度	178	1,038,071	—	—	59	245,979	—	—
平成25年度	194	943,857	—	—	53	153,460	—	—
平成24年度	165	793,719	—	—	57	142,360	—	—
平成23年度	96	574,506	—	—	50	113,520	—	—
平成22年度	102	489,661	—	—	37	74,913	—	—
平成21年度	31	112,695	—	—	11	31,000	—	—
平成20年度	8	36,106	—	—	0	0	—	—
平成19年度	1	2,893	—	—	1	2,547	—	—
合 計	14,485	60,439,898	0	0	306	918,799	0	0

別表21 受益者分担金未収金及び不納欠損額（税込）

令和3年3月31日現在

（単位：円、件）

	未 収 金				不 納 欠 損			
	令和2年度		令和元年度		令和2年度		令和元年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
令和2年度	32	3,193,000			0	0		
令和元年度	10	252,000	—	—	0	0	—	—
平成30年度	4	104,000	—	—	0	0	—	—
平成29年度	8	196,000	—	—	0	0	—	—
平成28年度	5	105,469	—	—	1	22,000	—	—
平成27年度	0	0	—	—	1	22,000	—	—
平成26年度	1	90,000	—	—	0	0	—	—
平成25年度	1	90,000	—	—	0	0	—	—
平成24年度	1	28,788	—	—	0	0	—	—
平成23年度	1	65,000	—	—	1	26,000	—	—
平成22年度	1	22,000	—	—	4	104,000	—	—
平成21年度	8	169,100	—	—	2	51,993	—	—
平成20年度	3	95,704	—	—	0	0	—	—
平成19年度	5	104,000	—	—	0	0	—	—
平成18年度	28	616,000	—	—	0	0	—	—
平成17年度	25	533,100	—	—	0	0	—	—
平成16年度	8	107,500	—	—	0	0	—	—
合 計	141	5,771,661	0	0	9	225,993	0	0

京丹後市病院事業会計

1 事業の概況

事業の概要は、別表 22 のとおりである。

一般病床と療養病床を合わせた入院患者数は、弥栄病院が延 50,996 人（1 日平均 139.7 人）、久美浜病院が延 46,381 人（同 127.1 人）で、前年度に比べて弥栄病院が 828 人（同 2.6 人）の増加、久美浜病院が 7,636 人（同 20.5 人）の減少となった。

外来患者数は、弥栄病院が延 91,730 人（1 日平均 377.5 人）、久美浜病院が延 69,346 人（同 285.4 人）となり、前年度に比べて弥栄病院は 4,819 人（同 21.5 人）の減少、久美浜病院は 7,745 人（同 33.2 人）の減少となった。

病床利用率は、弥栄病院は、前年度に比べて 1.3 ポイント上昇し 70.2%に、久美浜病院は 12.1 ポイント低下し 74.7%の結果となった。

令和 2 年度は、入院・外来ともに、受診控えや入院の受け入れ制限など、新型コロナウイルスによる市立病院経営への大きな影響が見られる結果となった。

(1) 入院患者の状況

入院患者の状況は、別表 23、別表 26 及び別表 27 のとおりである。

一般病床においては、弥栄病院では患者数が内科等で減少したが、外科、産婦人科で増加し、延患者数は 36,162 人と、前年度に比べて 996 人の増加となった。また、久美浜病院では外科で患者数が増加したものの、内科・小児科をはじめとするその他の診療科で減少し、延患者数は 29,704 人で、前年度に比べて 5,543 人の減少となった。

療養病床においては、弥栄病院では延患者数が 14,834 人で前年度に比べて 168 人の減少、久美浜病院では 16,677 人と前年度に比べて 2,093 人の減少となった。

施設の利用状況を表す病床利用率は、別表 29 のとおりである。

弥栄病院の一般病床の利用率は 66.0%で、前年度に比べて 1.9 ポイント上昇し、療養病床では 82.9%で 0.8 ポイント低下した。久美浜病院の一般病床の利用率は 74.0%で、前年度に比べて 13.5 ポイント低下し、療養病床では 76.2%と 9.3 ポイント低下した。

(2) 外来患者の状況

外来患者の状況は、別表 23 及び別表 28 のとおりである。

弥栄病院では、産婦人科、精神科、人工透析などで患者数が増加したが、整形外科、内科、眼科、小児科などで減少し、延患者数は 91,730 人と、前年度に比べ 4,819 人の減少となった。

久美浜病院では、歯科・歯科口腔外科などで患者数が増加したが、内科、小児科、などで減少し、延患者数は 69,346 人と、前年度に比べ 7,745 人の減少となった。

なお、診療実日数は、弥栄病院、久美浜病院共に前年度よりも 1 日多い 243 日であった。

(3) 訪問看護事業の状況

訪問看護事業の状況は、別表 24 のとおりである。

弥栄病院では、訪問実人数は 3,435 人で前年度に比べ 483 人の増加、訪問延人数は 14,191 人で前年度に比べ 2,056 人の増加となった。久美浜病院では、訪問実人数は 1,764 人で前年度に比べ 305 人の増加、訪問延人数は 8,505 人で前年度に比べ 1,480 人の増加と、共に大幅な増加となった。

高齢化や核家族化が進行する中、訪問患者数は年々増加している。令和 2 年度は特に新型コロナウイルスの影響も考えられる。在宅医療の充実や生活の安定のために大切な事業であるので、今後も地域の実状に即した運営を望むものである。

(4) 通所リハビリテーション事業の状況

通所リハビリテーション事業の状況は、別表 25 のとおりである。

平成 19 年度から久美浜病院で実施されている事業であり、通所実人数は 462 人で前年度より 147 人の減少、通所延人数は 3,993 人と 189 人の減少となった。

2 予算執行状況（税込）

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

（決算書 P4、P5 及び 別表 32 参照）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
弥栄病院事業収益	4,306,508	4,326,010	19,502	100.5
医業収益	3,619,119	3,618,001	△ 1,118	100.0
医業外収益	472,334	485,801	13,467	102.9
訪問看護事業収益	125,329	132,438	7,109	105.7
特別利益	89,726	89,770	44	100.0
久美浜病院事業収益	2,854,536	2,875,658	21,122	100.7
医業収益	2,219,374	2,220,148	774	100.0
医業外収益	396,153	409,494	13,341	103.4
訪問看護事業収益	63,478	78,191	14,713	123.2
通所リハビリテーション事業収益	44,346	36,693	△ 7,653	82.7
特別利益	131,185	131,132	△ 53	100.0
合 計	7,161,044	7,201,668	40,624	100.6

収益的収入である病院事業収益は、予算額 71 億 6,104 万 4 千円に対して決算額 72 億 166 万 8 千円で、収入率は 100.6％となっている。

訪問看護事業収益は、両病院共に前年度に比べて増加しており、両病院で 3,495 万 3 千円（弥栄病院 1,801 万 2 千円、久美浜病院 1,694 万 1 千円）の増収となった。

収益的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P6, P7 及び 別表 32 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	繰越額	不用額	執行率
弥栄病院事業費用	4,804,611	4,553,501	0	251,110	94.8
医業費用	4,534,942	4,300,880	0	234,062	94.8
医業外費用	82,221	80,218	0	2,003	97.6
訪問看護事業費用	110,338	105,801	0	4,537	95.9
特別損失	66,603	66,602	0	1	100.0
予備費	10,507	0	0	10,507	0.0
久美浜病院事業費用	3,016,996	2,853,664	0	163,332	94.6
医業費用	2,805,032	2,659,843	0	145,189	94.8
医業外費用	42,397	41,548	0	849	98.0
訪問看護事業費用	53,017	50,666	0	2,351	95.6
通所リハビリテーション事業費用	37,475	33,207	0	4,268	88.6
特別損失	68,630	68,400	0	230	99.7
予備費	10,445	0	0	10,445	0.0
合 計	7,821,607	7,407,165	0	414,442	94.7

収益的支出である病院事業費用は、予算額 78 億 2,160 万 7 千円に対して決算額 74 億 716 万 5 千円で、執行率は 94.7%となっている。不用額は総額 4 億 1,444 万 2 千円で、その大半は、医業費用における給与費・材料費及び経費である。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P8, P9 及び 別表 33 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	収入率
弥栄病院資本的収入	315,910	314,675	△ 1,235	99.6
企業債	75,900	75,900	0	100.0
他会計負担金	28,746	28,746	0	100.0
補助金	60,558	59,073	△ 1,485	97.5
他会計出資金	149,469	149,469	0	100.0
長期貸付金返還金	1,237	1,387	150	112.1
寄附金	0	100	100	—
久美浜病院資本的収入	265,012	265,006	△ 6	100.0
企業債	31,000	31,000	0	100.0
他会計負担金	35,779	35,779	0	100.0
補助金	32,325	32,318	△ 7	100.0

他会計出資金	164,671	164,671	0	100.0
長期貸付金返還金	1,237	1,238	1	100.1
合 計	580,922	579,681	△ 1,241	99.8

資本的収入は、予算額 5 億 8,092 万 2 千円に対して決算額 5 億 7,968 万 1 千円で、収入率は 99.8%となっている。

資本的支出の予算執行状況は、次のとおりである。

(決算書 P10, P11 及び 別表 33 参照)

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
弥栄病院資本的支出	448,938	408,105	21,500	19,333	90.9
建設改良費	172,919	150,486	21,500	933	87.0
企業債償還金	252,794	252,794	0	0	100.0
長期貸付金	4,975	4,825	0	150	97.0
予備費	18,250	0	0	18,250	0.0
久美浜病院資本的支出	387,211	345,204	16,000	26,007	89.2
建設改良費	101,000	69,294	16,000	15,706	68.6
企業債償還金	271,236	271,235	0	1	100.0
長期貸付金	4,975	4,675	0	300	94.0
予備費	10,000	0	0	10,000	0.0
合 計	836,149	753,309	37,500	45,340	90.1

資本的支出は、予算額 8 億 3,614 万 9 千円に対して決算額 7 億 5,330 万 9 千円で、執行率は 90.1%となっている。

主な施設設備の状況は、次のとおりである。

(決算書 P30, P31, P42, P43 参照)

(単位：千円)

区 分	内 容	金 額
建設改良 (500 万以上)	該当なし	
資産購入 (1,000 万以上)	弥栄病院	
	外科用ビデオカメラシステム	16,280
	所見レポートシステム	11,880
	分娩監視システム	11,550

改良工事に関しては 534 万 6 千円（弥栄病院のみ）支出し、器械及び備品整備については 1 億 9,714 万円（弥栄病院 1 億 2,784 万 5 千円、久美浜病院 6,929 万 5 千円）を支出した。医師の確保など診療の充実を目指した投資に加え、新型コロナウイルス感染症防止対策のための施設整備費等を行っている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 1 億 7,362 万 8 千円は、損益勘定留保資金等で補てんしている。（別表 33 参照）

3 経営成績（税抜）

損益計算書による経営成績は、次のとおりである。

（決算書 P12, P34, P46 及び 別表 34 参照）

（単位：千円、％）

区 分	令和 2 年度			令和元年度		
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
総収益 (A)	7,175,995	4,309,554	2,866,441	6,965,126	4,102,651	2,862,475
総費用 (B)	7,382,020	4,536,042	2,845,978	7,239,674	4,438,308	2,801,366
純損益	△ 206,025	△ 226,488	20,463	△ 274,548	△ 335,657	61,109
比率 (A)/(B)	97.2	95.0	100.7	96.2	92.4	102.2

総収益 71 億 7,599 万 5 千円に対して総費用 73 億 8,202 万円で、差し引き 2 億 602 万 5 千円の純損失となっている。この結果、前年度繰越欠損金 31 億 9,133 万 9 千円を加え、当年度未処理欠損金（累積欠損金）は、33 億 9,736 万 4 千円となっている。

病院別の状況については、弥栄病院の総収益は 43 億 955 万 4 千円、総費用は 45 億 3,604 万 2 千円で、差し引き 2 億 2,648 万 8 千円の純損失となり、当年度未処理欠損金は、18 億 5,403 万 3 千円となっている。医業収益は 36 億 265 万 2 千円で、前年度に比べて 8,086 万 6 千円（2.3％）増加、医業費用も 41 億 4,706 万 3 千円と、前年度に比べて 1,848 万 1 千円（0.4％）増加し、医業損失は 5 億 4,441 万 1 千円で前年度と比べ 6,238 万 5 千円の減となり、好転している。

次に、久美浜病院の総収益は 28 億 6,644 万 1 千円、総費用は 28 億 4,597 万 8 千円で、差し引き 2,046 万 3 千円の純利益となり、当年度未処理欠損金は 15 億 4,333 万 1 千円となっている。医業収益は 22 億 1,280 万 4 千円で、前年度に比べて 2 億 2,807 万 5 千円（9.3％）の減少となった。医業費用も 25 億 8,763 万 5 千円と、前年度に比べて 3,024 万 6 千円（1.2％）減少しており、医業損失は 3 億 7,483 万 1 千円で前年度と比べ 1 億 9,782 万 9 千円の増となり、悪化している。

また、総収支比率は、別表 33 のとおり 97.2％と 4 年連続の純損失となった。

医業における経営状態を示す比率は、次のとおりである。

（別表 31 参照）

（単位：％）

区 分	令和 2 年度			令和元年度		
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
経常収支比率	96.0	94.4	98.5	95.1	92.0	100.2
医業収益対医業費用比率	87.6	87.8	87.1	89.2	85.9	94.5

経常収支比率は、収益と費用を対比して経営活動の成果を示すものであり、比率が大きいほど良好であるが、前年度に比べて 0.9 ポイントの上昇（弥栄病院 2.4 ポイントの上昇、久美浜病院 1.7 ポイントの低下）となった。

医業収益対医業費用比率は、医業費用に対する医業収益の比率を示すものであり、

100%未満は医業収支が赤字であることになる。前年度に比べて1.6ポイントの低下（弥栄病院1.9ポイントの上昇、久美浜病院7.4ポイントの低下）となり、弥栄病院の経営状態は好転しているのに対し、久美浜病院の経営状態は低下している結果となった。

4 財政状態（税抜）

貸借対照表による財政状態は、次のとおりである。

（別表35～38 参照）

（単位：千円）

区 分		令和2年度			令和元年度		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
資 産	固定資産	8,205,933	6,386,712	1,819,221	8,595,715	6,704,382	1,891,333
	流動資産	1,311,933	804,916	507,017	1,200,977	694,383	506,594
	計	9,517,866	7,191,628	2,326,238	9,796,692	7,398,765	2,397,927
負 債	固定負債	6,610,711	5,615,922	994,789	7,037,262	5,801,887	1,235,375
	流動負債	2,185,742	1,204,751	980,991	1,993,097	1,080,111	912,986
	繰延収益	632,977	381,207	251,770	804,386	453,928	350,458
	計	9,429,430	7,201,880	2,227,550	9,834,745	7,335,926	2,498,819
資 本	資 本 金	1,123,922	728,491	395,431	809,783	579,023	230,760
	剰 余 金	△ 1,035,486	△ 738,743	△ 296,743	△ 847,836	△ 516,184	△ 331,652
	計	88,436	△ 10,252	98,688	△ 38,053	62,839	△ 100,892
負債資本合計		9,517,866	7,191,628	2,326,238	9,796,692	7,398,765	2,397,927

資産の総額は95億1,786万6千円で、前年度に比べて2億7,882万6千円(2.8%)減少している。

固定資産は、総額では3億8,978万2千円の減少で、主な内訳として、建物が2億8,522万2千円、構築物が1,791万9千円、器械及び備品が6,925万9千円の減少であった。

流動資産である個人が窓口で支払うべき診療費の未収金の状況は、次のとおりである。

令和3年3月31日現在

（単位：千円）

区 分	令和2年度			令和元年度		
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
未 収 金	53,718	34,962	18,756	54,184	34,073	20,111
不納欠損	509	509	—	166	166	—

未収金の総額は5,371万8千円で、前年度に比べて46万6千円（弥栄病院は88万9千円の増、久美浜病院は135万5千円の減）減少している。令和3年5月31日

現在の未収金の総額は4,368万5千円で、前年度に比べて48万2千円（弥栄病院は25万6千円の減、久美浜病院は22万6千円の減）減少している。

負債の総額は94億2,943万円で、前年度に比べて4億531万5千円（4.1%）減少している。固定負債の減少は、企業債4億2,125万3千円、リース債務529万8千円の減少によるものであり、流動負債の増加は、未払金が4,375万8千円減少した一方で、一時借入金が増加したことなどによるものである。

資本の総額は8,843万6千円で、前年度に比べて1億2,648万9千円（332.4%）増加している。

企業債の状況は次のとおりである。

（決算書 P35, P47, P64-65, P74-75 参照）

（単位：千円）

区 分	令和元年度 末残高	令和2年度		令和2年度 末残高	令和2年度 支払利息
		発行額	償還額		
弥栄病院	6,034,745	75,900	252,794	5,857,851	36,137
久美浜病院	1,506,610	43,700	271,235	1,279,075	25,408
合 計	7,541,355	119,600	524,029	7,136,926	61,545

企業債残高は、71億3,692万6千円で、前年度に比べて4億442万9千円（5.4%）減少している。医療器械購入等のため、両病院で1億1,960万円を新たに借り入れているが、償還額がそれを上回ったことによるものである。

病院別の状況については、弥栄病院では、企業債残高は58億5,785万1千円で、前年度に比べて1億7,689万4千円（2.9%）減少している。企業債利息は3,613万7千円で、医業収益36億265万2千円に占める割合は1.0%（前年度1.1%）とやや減少している。

次に、久美浜病院では、企業債残高は12億7,907万5千円で、前年度に比べて2億2,753万5千円（15.1%）減少している。企業債利息は2,540万8千円で、医業収益22億1,280万4千円に占める割合は1.2%（前年度1.3%）とこちらもやや減少している。

5 むすび

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を非常に大きく受けた年で、玄関での発熱トリージ、入院患者の面会制限等、院内での感染防止対策を進められた。また、空調設備改修や空気清浄機等の導入により、感染拡大に対する備えを強化された。

平成29年3月に策定された「京丹後市立病院改革プラン【改訂版】」の最終年度を迎え、改革プランに掲げた目標を達成し地域医療を担う公立病院としての役割を果たすべく、感染症対策を最優先としながらも、経営の改善に向けて職員が知恵を出し合い、一丸となって取り組まれた。

病院の医療体制について、弥栄病院では、常勤医師では新たに産婦人科医師 2 名を迎えたものの、内科医師の退職があり、厳しい医療体制での運営となった。久美浜病院では、昨年度末に内科医師が退職し、1 名減の医師体制でのスタートとなった。両病院、医療部においては、医師不足の解消に向けて精力的に招へい活動をするなどの努力は高く評価できるが、医師の獲得につながりにくい状況にある。また、常勤医師の不足を補完するべく、京都府立医科大学、京都府立医科大学附属北部医療センター等から医師の派遣を受けるなど、地域住民が安心できる医療体制の確保に努めたことは評価できる。しかしながら、外来診療に加えて入院診療の体制を安定的に維持するには依然として常勤医師が不足しており、引き続き多方面からの招へい活動に尽力されたい。

また、京都市内、神戸市内の病院から研修医を受け入れ、将来の地域医療を担う人材の育成に取り組まれ、その結果、医療体制の補完や常勤医師の負担軽減につながったことについても評価する。

経常収支について、弥栄病院、久美浜病院共に医師体制が不十分な状況の中、収益増加につながる取組を工夫し実施したが、5 年連続の赤字決算となった。収益面を見ると、弥栄病院では入院収益、外来収益、訪問看護で収入が増加した一方で、久美浜病院では訪問看護で収入が増加したものの、入院収益、外来収益での減少が大きく、両院合計では入院収益、外来収益共に減少した結果となった。費用面を見ると、弥栄病院では給与費などが増加、久美浜病院では経費、訪問看護の給与費などが増加しており赤字となった。新型コロナウイルス感染症の影響で受診控え等がある中、一定の収益を確保するための取組を尽力いただいているが、それと同時に経費節減の努力も必要である。そのような中、一部、時間外勤務や物品購入の面で、全体的なマネジメントの徹底が必要な点が見受けられた。平成 30 年度から 3 年連続で資金不足比率は増加しており、健全な経営状態であるとは言えない状況である。収支の改善には、安定的に入院収入を確保することが肝要であり、診療科ごとの患者数、診療収入などに注目し、患者のニーズに応えられるよう常勤医師の拡充や各部門の連携を図ることによって、医療体制を強化する必要がある。

個人が窓口で支払うべき診療費の未収金については、前年度に比べ減少している。電話及び文書による督促や訪問徴収に加え、弁護士法人への回収業務の委託やクレジットカードによる支払を導入しているが、依然、多額の未収金がある。負担の公平性、経営の健全化を推し進める観点から、診療費の滞納整理については、今後も関係部局等と連携して積極的な対応を求めるものである。また、未収金の増加を防ぐために、特に現年度の未収金回収を早期に着手するなど、債権の適正な管理と徴収に努められたい。

市立診療所も含めた市全体の医療体制については、将来にわたって地域医療、救急医療、産科・小児科医療、在宅医療、リハビリ等、幅広く必要な医療を提供し、公的医療施設に求められる役割が十分に果たせるよう、経営改善への具体的な方策をもって持続可能な運営に努める必要がある。病院施設及び設備についても長期的な展

望に立って計画的に整備し、患者サービスと医療の質の向上のため、有効に活用されたい。また、合併前からの課題である病院用地の借地問題について、その借地は病院施設の地上権が設定されているものの、市有地にすべきであり、解決するよう地権者との粘り強い交渉に努められたい。

医療を取り巻く環境の変化や多様化する患者のニーズを的確に把握し、今後も、全職員が経営感覚を常に念頭に置きながら、各病院の特色を生かして医療サービスの向上と経費削減に取り組まれたい。そして、市民に信頼され、地域に密着した良質で必要とされる医療等のサービスを提供し続けるためにも、中長期的な目線で安定的な経営基盤が確立されるよう強く望むものである。

病院事業会計 決算審査資料

別表２２	病院事業の概要	56
別表２３	入院患者・外来患者の状況	57
別表２４	訪問看護の状況	57
別表２５	通所リハビリテーションの状況	57
別表２６	診療科目別入院患者の状況（一般病床）	58
別表２７	診療科目別入院患者の状況（療養病床）	59
別表２８	診療科目別外来患者の状況	60
別表２９	病床利用率	61
別表３０	患者１人１日当たり診療収入	61
別表３１	収支比率	61
別表３２	収益的収支（税込）	62
別表３３	資本的収支（税込）	63
別表３４	損益計算書（税抜）	64
別表３５	資産	66
別表３６	負債	66
別表３７	資本金	67
別表３８	剰余金	67

（注）表中の数値は、基本的に表示数値未満を四捨五入（収入率及び執行率は、小数点第2位を切捨て）しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

別表22

病院事業の概要

項 目				単位	弥 栄 病 院			久 美 浜 病 院		
					令和2年度	令和元年度	対前年比 (R2-R1)	令和2年度	令和元年度	対前年比 (R2-R1)
医 業	病 床 数 ※1			床	199	199	0	170	170	0
		年 間 延		床	72,635	72,849	△ 214	62,050	62,220	△ 170
	患 者 数	入 院	年 間 延	人	50,996	50,168	828	46,381	54,017	△ 7,636
			1日平均	人	139.7	137.1	2.6	127.1	147.6	△ 20.5
		外 来	年 間 延	人	91,730	96,549	△ 4,819	69,346	77,091	△ 7,745
			1日平均	人	377.5	399.0	△ 21.5	285.4	318.6	△ 33.2
	病床利用率			%	70.2	68.9	1.3	74.7	86.8	△ 12.1
	外来診療実日数			日	243	242	1	243	242	1
	医業費用(税抜)			千円	4,147,063	4,128,582	18,481	2,587,635	2,617,881	△ 30,246
	医業収益(税抜)			千円	3,602,652	3,521,786	80,866	2,212,804	2,440,879	△ 228,075
	入 院 外 来 収 益 (税 抜)	入 院	総 額	千円	1,739,315	1,676,054	63,261	1,337,465	1,506,324	△ 168,859
			1人1日平均	円	34,107	33,409	698	28,836	27,886	950
		外 来	総 額	千円	1,480,088	1,475,312	4,776	626,861	665,851	△ 38,990
			1人1日平均	円	16,135	15,280	855	9,040	8,637	403
訪問看護 事業（事業 日数は外 来診療実 日数に同 じ）		訪問実人数		人	3,435	2,952	483	1,764	1,459	305
		訪問延人数		人	14,191	12,135	2,056	8,505	7,025	1,480
		1日平均 訪問患者数		人	58.4	50.1	8.3	35.0	29.0	6.0
通所リハ ビリテー ション事 業（事業 日数は外 来診療実 日数に同 じ）		通所実人数		人				462	609	△ 147
		通所延人数		人				3,993	4,182	△ 189
		1日平均 通所患者数		人				16.4	17.3	△ 0.9
職 員 数 (年度末 現在)		医 師		人	15	12	3	17	17	0
		看 護 師 ※2		人	172	130	42	158	96	62
		そ の 他		人	97	62	35	94	34	60
		計		人	284	204	80	269	147	122

※1 弥栄病院は、平成30年10月31日までは200床

※2 職員数の看護師には助産師・准看護師・介護福祉士・看護助手・介護助手を含む

別表23

入院患者・外来患者の状況

(単位：人、%)

年 度 区 分		令和2年度		令和元年度		対前年比 (R2/R1)	
		延患者数 (A)	1日平均 患者数	延患者数 (B)	1日平均 患者数	増減 (C) = (A-B)	比率 (C)/(B) ×100
入 院	一般病床(260床) 合 計	65,866	180.5	70,413	192.4	△ 4,547	△ 6.5
	弥栄病院 (150床)	36,162	99.1	35,166	96.1	996	2.8
	久美浜病院 (110床)	29,704	81.4	35,247	96.3	△ 5,543	△ 15.7
	療養病床(109床) 合 計	31,511	86.3	33,772	92.3	△ 2,261	△ 6.7
	弥栄病院 (49床)	14,834	40.6	15,002	41.0	△ 168	△ 1.1
	久美浜病院 (60床)	16,677	45.7	18,770	51.3	△ 2,093	△ 11.2
外 来	合 計	161,076	662.9	173,640	717.6	△ 12,564	△ 7.2
	弥栄病院(診療実日数：243日)	91,730	377.5	96,549	399.0	△ 4,819	△ 5.0
	久美浜病院(診療実日数：243日)	69,346	285.4	77,091	318.6	△ 7,745	△ 10.0

別表24

訪問看護の状況

(単位：人)

年 度 区 分		令和2年度			令和元年度			対前年比	
		訪問 実人数 (A)	訪問 延人数 (B)	1日平均 訪問 患者数	訪問 実人数 (C)	訪問 延人数 (D)	1日平均 訪問 患者数	増減 (A)-(C)	増減 (B)-(D)
合 計		5,199	22,696	93.4	4,411	19,160	79.1	788	3,536
弥栄病院		3,435	14,191	58.4	2,952	12,135	50.1	483	2,056
久美浜病院		1,764	8,505	35.0	1,459	7,025	29.0	305	1,480

別表25

通所リハビリテーションの状況

(単位：人、%)

年 度 区 分		令和2年度			令和元年度			対前年比	
		通所 実人数 (A)	通所 延人数 (B)	1日平均 通所 患者数	通所 実人数 (C)	通所 延人数 (D)	1日平均 通所 患者数	増減 (A)-(C)	増減 (B)-(D)
合 計		462	3,993	16.4	609	4,182	17.3	△ 147	△ 189
弥栄病院									
久美浜病院		462	3,993	16.4	609	4,182	17.3	△ 147	△ 189

別表26

診療科目別入院患者の状況(一般病床)

診療科	年 度	令和2年度			令和元年度			対前年比 (R2-R1)	
		延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人
150 床	弥栄病院								
	内 科	12,580	34.5	34.8	15,039	41.1	42.8	△ 2,459	△ 6.6
	外 科	5,503	15.1	15.2	4,183	11.4	11.9	1,320	3.7
	整形外科	9,286	25.4	25.7	9,314	25.5	26.5	△ 28	△ 0.1
	産婦人科	2,523	6.9	7.0	1,370	3.7	3.9	1,153	3.2
	小児科	607	1.7	1.7	243	0.7	0.7	364	1.0
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼 科	1,638	4.5	4.5	1,805	4.9	5.1	△ 167	△ 0.4
	泌尿器科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	人工透析	4,025	11.0	11.1	3,212	8.8	9.1	813	2.2
	リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	総合診療科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	精神科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小 計	36,162	99.1	100.0	35,166	96.1	100.0	996	3.0
110 床	久美浜病院								
	内 科	15,871	43.5	53.4	19,944	54.5	56.6	△ 4,073	△ 11.0
	外 科	4,536	12.4	15.3	4,001	10.9	11.4	535	1.5
	整形外科	3,842	10.5	12.9	4,104	11.2	11.6	△ 262	△ 0.7
	小児科	992	2.7	3.3	2,304	6.3	6.5	△ 1,312	△ 3.6
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼 科	131	0.4	0.5	195	0.6	0.6	△ 64	△ 0.2
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	泌尿器科	948	2.6	3.2	1,143	3.1	3.2	△ 195	△ 0.5
	歯科・歯科 口腔外科	3,384	9.3	11.4	3,556	9.7	10.1	△ 172	△ 0.4
	心療内科・ 精 神 科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小 計	29,704	81.4	100.0	35,247	96.3	100.0	△ 5,543	△ 14.9
合 計		65,866	180.5		70,413	192.4		△ 4,547	△ 11.9

別表 27

診療科目別入院患者の状況（療養病床）

診療科	年 度	令和2年度			令和元年度			対前年比 (R2-R1)	
		延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人
49床	弥栄病院								
	内 科	14,834	40.6	100.0	15,002	41.0	100.0	△ 168	△ 0.4
	外 科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	整形外科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	産婦人科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小児科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼 科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	泌尿器科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	人工透析	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	総合診療科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	精神科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小 計	14,834	40.6	100.0	15,002	41.0	100.0	△ 168	△ 0.4
60床	久美浜病院								
	内 科	12,820	35.1	76.9	15,450	42.2	82.3	△ 2,630	△ 7.1
	外 科	1,957	5.4	11.7	1,826	5.0	9.7	131	0.4
	整形外科	195	0.5	1.2	561	1.5	3.0	△ 366	△ 1.0
	小児科	0	0.0	0.0	20	0.1	0.1	△ 20	△ 0.1
	皮膚科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	眼 科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	耳鼻咽喉科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	泌尿器科	1,705	4.7	10.2	913	2.5	4.9	792	2.2
	歯科・歯科 口腔外科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	心療内科・ 精神科	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
	小 計	16,677	45.7	100.0	18,770	51.3	100.0	△ 2,093	△ 5.6
合 計		31,511	86.3		33,772	92.3		△ 2,261	△ 6.0

別表28

診療科目別外来患者の状況

年 度 診療科		令和2年度			令和元年度			対前年比 (R2-R1)	
		延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人	構成比率 %	延患者数 人	1日平均 患者数 人
弥 栄 病 院	内 科	23,135	95.2	25.2	25,009	103.4	25.9	△ 1,874	△ 8.2
	外 科	1,723	7.1	1.9	1,589	6.6	1.7	134	0.5
	整形外科	19,839	81.7	21.6	22,233	91.9	23.0	△ 2,394	△ 10.2
	産婦人科	7,982	32.9	8.7	6,691	27.6	6.9	1,291	5.3
	小児科	2,576	10.6	2.8	3,660	15.1	3.8	△ 1,084	△ 4.5
	耳鼻咽喉科	1,929	7.9	2.1	2,182	9.0	2.3	△ 253	△ 1.1
	眼 科	14,502	59.7	15.8	15,875	65.6	16.4	△ 1,373	△ 5.9
	泌尿器科	1,561	6.4	1.7	1,573	6.5	1.6	△ 12	△ 0.1
	人工透析	8,751	36.0	9.6	8,435	34.9	8.7	316	1.1
	リハビリテーション科	681	2.8	0.7	857	3.5	0.9	△ 176	△ 0.7
	皮膚科	2,512	10.3	2.8	2,277	9.5	2.4	235	0.8
	総合診療科	2,411	9.9	2.6	2,647	10.9	2.7	△ 236	△ 1.0
	精神科	4,128	17.0	4.5	3,521	14.5	3.7	607	2.5
	小 計	91,730	377.5	100.0	96,549	399.0	100.0	△ 4,819	△ 21.5
久 美 浜 病 院	内 科	26,011	107.0	37.5	30,018	124.0	38.9	△ 4,007	△ 17.0
	外 科	5,103	21.0	7.4	5,034	20.8	6.5	69	0.2
	整形外科	5,076	20.9	7.3	5,343	22.1	6.9	△ 267	△ 1.2
	小児科	6,448	26.5	9.3	9,695	40.1	12.6	△ 3,247	△ 13.6
	皮膚科	1,531	6.3	2.2	1,455	6.0	1.9	76	0.3
	眼 科	3,754	15.5	5.4	4,395	18.2	5.7	△ 641	△ 2.7
	耳鼻咽喉科	1,437	5.9	2.1	1,614	6.7	2.1	△ 177	△ 0.8
	泌尿器科	3,778	15.6	5.4	3,786	15.6	4.9	△ 8	0.0
	歯科・歯科 口腔外科	15,875	65.3	22.9	15,410	63.7	20.0	465	1.6
	心療内科・ 精 神 科	333	1.4	0.5	341	1.4	0.5	△ 8	0.0
	小 計	69,346	285.4	100.0	77,091	318.6	100.0	△ 7,745	△ 33.2
合 計		161,076	662.9		173,640	717.6		△ 12,564	△ 54.7

別表29 病 床 利 用 率

(単位：％)

区 分	算 出 方 法	年度 病 院	令和2年度	令和元年度	平成30年度	対前年比 (R2-R1)
一般病床	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	合 計	69.4	74.0	77.4	△ 4.6
		弥栄病院	66.0	64.1	68.0	1.9
		久美浜病院	74.0	87.5	90.3	△ 13.5
療養病床	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	合 計	79.2	84.7	86.8	△ 5.5
		弥栄病院	82.9	83.7	86.3	△ 0.8
		久美浜病院	76.2	85.5	87.2	△ 9.3

別表30 患者1人1日当たり診療収入

(単位：円)

区 分	算 出 方 法	年度 病 院	令和2年度	令和元年度	平成30年度	対前年比 (R2-R1)
入院診療収入 (一般病床)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	合 計	37,821	36,221	34,460	1,600
		弥栄病院	39,965	39,542	37,281	423
		久美浜病院	35,211	32,907	31,566	2,304
入院診療収入 (療養病床)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	合 計	18,586	18,713	19,041	△ 127
		弥栄病院	19,827	19,032	19,036	795
		久美浜病院	17,482	18,458	19,045	△ 976
外来診療収入	$\frac{\text{外 来 収 益}}{\text{年延外来患者数}}$	合 計	13,080	12,331	11,768	749
		弥栄病院	16,135	15,280	14,356	855
		久美浜病院	9,040	8,637	8,480	403
訪問看護収入	$\frac{\text{訪問看護事業収益}}{\text{年延訪問看護患者数}}$	合 計	9,280	9,169	9,154	111
		弥栄病院	9,333	9,429	9,355	△ 96
		久美浜病院	9,193	8,719	8,785	474
通所リハビリ収入	$\frac{\text{通所リハビリ事業収益}}{\text{年延通所患者数}}$	合 計	9,189	9,828	9,765	△ 639
		弥栄病院				
		久美浜病院	9,189	9,828	9,765	△ 639

別表31 病 院 事 業 収 支 比 率

(単位：％)

区 分	算 出 方 法	年度 病 院	令和2年度	令和元年度	平成30年度	対前年比 (R2-R1)
経常収支比率	$\frac{\text{医業収益+医業外収益+訪問看護事業収益+通所リハビリ事業収益}}{\text{医業費用+医業外費用+訪問看護事業費用+通所リハビリ事業費用}} \times 100$	合 計	96.0	95.1	94.9	0.9
		弥栄病院	94.4	92.0	92.0	2.4
		久美浜病院	98.5	100.2	99.4	△ 1.7
医業収益対 医業費用比率	$\frac{\text{医業収益+訪問看護事業収益+通所リハビリ事業収益}}{\text{医業費用+訪問看護事業費用+通所リハビリ事業費用}} \times 100$	合 計	87.6	89.2	84.7	△ 1.6
		弥栄病院	87.8	85.9	83.0	1.9
		久美浜病院	87.1	94.5	87.1	△ 7.4

別表 32

病院事業収益の収支（税込）

（単位：千円）

区 分 \ 年 度		令和2年度			令和元年度		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
収益的収入	医 業 収 益	5,838,149	3,618,001	2,220,148	5,983,628	3,535,228	2,448,400
	医 業 外 収 益	895,295	485,801	409,494	705,815	444,620	261,195
	訪問看護事業収益	210,629	132,438	78,191	175,676	114,426	61,250
	通所リハビリテーション事業収益	36,693		36,693	41,101		41,101
	特 別 利 益	220,902	89,770	131,132	81,846	22,554	59,292
	合 計	7,201,668	4,326,010	2,875,658	6,988,066	4,116,828	2,871,238
収益的支出	医 業 費 用	6,960,723	4,300,880	2,659,843	6,954,608	4,266,540	2,688,068
	医 業 外 費 用	121,766	80,218	41,548	126,430	79,296	47,134
	訪問看護事業費用	156,467	105,801	50,666	145,178	104,205	40,973
	通所リハビリテーション事業費用	33,207		33,207	33,248		33,248
	特 別 損 失	135,002	66,602	68,400	5,400	2,700	2,700
	予 備 費	0	0	0	0	0	0
	合 計	7,407,165	4,553,501	2,853,664	7,264,864	4,452,741	2,812,123

別表 33

病院事業資本の収支（税込）

（単位：千円）

区 分		令和2年度			令和元年度			
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
資本の収入	企 業 債		106,900	75,900	31,000	182,800	108,800	74,000
	他 会 計 負 担 金		64,525	28,746	35,779	17,317	3,475	13,842
	補 助 金		91,391	59,073	32,318	5,500	2,750	2,750
	他 会 計 出 資 金		314,140	149,469	164,671	313,030	151,070	161,960
	長期貸付金返還金		2,625	1,387	1,238	1,500	750	750
	寄 附 金		100	100	0	250	250	0
	小 計		579,681	314,675	265,006	520,397	267,095	253,302
	補填財源	消費税及び地方消費税資本の収支調整額	0			0	0	0
		繰越工事資金	0			0	0	0
		損益勘定等留保資金等	173,628	93,429	80,199	227,198	111,772	115,426
		利益剰余金	0			0	0	0
		小 計	173,628	93,429	80,199	227,198	111,772	115,426
	合 計		753,309	408,104	345,205	747,595	378,867	368,728
資本の支出	建 設 改 良 費		219,780	150,486	69,294	211,082	112,781	98,301
	企 業 債 償 還 金		524,029	252,794	271,235	527,463	261,561	265,902
	長 期 貸 付 金		9,500	4,825	4,675	9,050	4,525	4,525
	合 計		753,309	408,105	345,204	747,595	378,867	368,728

別表34

病院事業損益計算書（税抜）

（単位：千円）

区 分	年 度	令和2年度			令和元年度			対前年比(R2-R1)			対前年度比 計 (%) R2/R1 *100-100
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
病院事業収益	(A)	7,175,995	4,309,554	2,866,441	6,965,126	4,102,651	2,862,475	210,869	206,903	3,966	3.0
医業収益		5,815,456	3,602,652	2,212,804	5,962,665	3,521,786	2,440,879	△ 147,209	80,866	△ 228,075	△ 2.5
入院収益		3,076,780	1,739,315	1,337,465	3,182,378	1,676,054	1,506,324	△ 105,598	63,261	△ 168,859	△ 3.3
外来収益		2,106,949	1,480,088	626,861	2,141,164	1,475,313	665,851	△ 34,215	4,775	△ 38,990	△ 1.6
他会計負担金		395,802	214,697	181,105	410,632	214,448	196,184	△ 14,830	249	△ 15,079	△ 3.6
その他医業収益		235,925	168,552	67,373	228,491	155,971	72,520	7,434	12,581	△ 5,147	3.3
医業外収益		892,316	484,694	407,622	703,838	443,885	259,953	188,478	40,809	147,669	26.8
受取利息配当金		5	3	2	5	3	2	0	0	0	0.0
他会計補助金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
補助金		125,749	57,570	68,179	26,030	12,895	13,135	99,719	44,675	55,044	383.1
負担金交付金		504,506	281,599	222,907	394,047	275,497	118,550	110,459	6,102	104,357	28.0
患者外給食収益		1,653	1,477	176	1,551	1,376	175	102	101	1	6.6
長期前受金戻入		209,971	125,858	84,113	232,808	135,978	96,830	△ 22,837	△ 10,120	△ 12,717	△ 9.8
その他医業外収益		50,432	18,187	32,245	49,397	18,136	31,261	1,035	51	984	2.1
訪問看護事業収益		210,628	132,438	78,190	175,677	114,427	61,250	34,951	18,011	16,940	19.9
訪問看護療養費収益		194,937	122,436	72,501	163,140	106,305	56,835	31,797	16,131	15,666	19.5
利用料収益		15,691	10,002	5,689	12,537	8,122	4,415	3,154	1,880	1,274	25.2
通所リハビリテーション事業収益		36,693		36,693	41,101		41,101	△ 4,408		△ 4,408	△ 10.7
通所リハビリテーション療養費収益		30,799		30,799	34,757		34,757	△ 3,958		△ 3,958	△ 11.4
利用料収益		5,894		5,894	6,344		6,344	△ 450		△ 450	△ 7.1
その他事業収益		0		0	0		0	0		0	—
特別利益		220,902	89,770	131,132	81,845	22,553	59,292	139,057	67,217	71,840	169.9
過年度損益修正益		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
長期前受金戻入		80,243	20,412	59,831	75,680	18,954	56,726	4,563	1,458	3,105	6.0
その他特別利益		140,659	69,358	71,301	6,165	3,599	2,566	134,494	65,759	68,735	2,181.6

(単位：千円)

区 分 \ 年 度	令和2年度			令和元年度			対前年比(R2-R1)			対前年度比 計 (R2/R1) *100-100 (%)
	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院	
病院事業費用 (B)	7,382,020	4,536,042	2,845,978	7,239,674	4,438,308	2,801,366	142,346	97,734	44,612	2.0
医業費用	6,734,698	4,147,063	2,587,635	6,746,463	4,128,582	2,617,881	△ 11,765	18,481	△ 30,246	△ 0.2
給与費	3,875,953	2,179,528	1,696,425	3,840,652	2,142,491	1,698,161	35,301	37,037	△ 1,736	0.9
材料費	1,379,450	1,061,689	317,761	1,402,102	1,053,844	348,258	△ 22,652	7,845	△ 30,497	△ 1.6
経 費	898,112	464,640	433,472	868,650	461,796	406,854	29,462	2,844	26,618	3.4
減価償却費	567,174	433,221	133,953	603,251	453,380	149,871	△ 36,077	△ 20,159	△ 15,918	△ 6.0
資産減耗費	2,146	1,650	496	7,004	5,525	1,479	△ 4,858	△ 3,875	△ 983	△ 69.4
研究研修費	11,863	6,335	5,528	24,804	11,546	13,258	△ 12,941	△ 5,211	△ 7,730	△ 52.2
医業外費用	323,587	217,097	106,490	310,157	203,170	106,987	13,430	13,927	△ 497	4.3
支払利息及び企業債取 扱諸費	61,864	36,452	25,412	68,291	37,701	30,590	△ 6,427	△ 1,249	△ 5,178	△ 9.4
長期前払消費税償却	41,058	31,828	9,230	42,805	32,555	10,250	△ 1,747	△ 727	△ 1,020	△ 4.1
患者外給食材料費	1,531	1,477	54	1,518	1,407	111	13	70	△ 57	0.9
雑損失	219,134	147,340	71,794	197,543	131,507	66,036	21,591	15,833	5,758	10.9
訪問看護事業費用	155,734	105,279	50,455	144,639	103,856	40,783	11,095	1,423	9,672	7.7
給与費	149,358	100,477	48,881	139,647	100,606	39,041	9,711	△ 129	9,840	7.0
材料費	95	95	0	178	59	119	△ 83	36	△ 119	△ 46.6
経 費	6,160	4,636	1,524	4,606	3,082	1,524	1,554	1,554	0	33.7
研究研修費	121	71	50	208	109	99	△ 87	△ 38	△ 49	△ 41.8
通所リハビリテーション事 業費用	32,998		32,998	33,015		33,015	△ 17		△ 17	△ 0.1
給与費	30,941		30,941	30,233		30,233	708		708	2.3
材料費	713		713	1,454		1,454	△ 741		△ 741	△ 51.0
経 費	1,331		1,331	1,287		1,287	44		44	3.4
研究研修費	13		13	41		41	△ 28		△ 28	△ 68.3
特別損失	135,003	66,603	68,400	5,400	2,700	2,700	129,603	63,903	65,700	2,400.1
過年度損益修正損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
その他特別損失	135,003	66,603	68,400	5,400	2,700	2,700	129,603	63,903	65,700	2,400.1
当年度純損益 (A)-(B)	△ 206,025	△ 226,488	20,463	△ 274,548	△ 335,657	61,109	68,523	109,169	△ 40,646	△ 25.0
当年度末処理欠損金	3,397,364	1,854,033	1,543,331	3,191,339	1,627,545	1,563,794	206,025	226,488	△ 20,463	6.5
総収益対総費用比率 (A)/(B)	97.2	95.0	100.7	96.2	92.4	102.2	1.0	2.6	△ 1.5	

(注) 制度改正に伴い、平成26年度以降の当年度末処理欠損金は、(前年度繰越欠損金+当年度純損益-その他未処分利益剰余金変動額)により計算

別表 35

病 院 事 業 資 産

(単位：千円)

年 度 区 分		令和2年度末 償却未済高			令和元年度末 償却未済高		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
固定資産		8,205,933	6,386,712	1,819,221	8,595,715	6,704,382	1,891,333
	有形固定資産	7,772,281	6,027,755	1,744,526	8,144,662	6,328,821	1,815,841
	土 地	511,889	101,998	409,891	511,889	101,999	409,890
	建 物	5,803,781	4,810,572	993,209	6,089,003	5,034,835	1,054,168
	構 築 物	256,715	226,807	29,908	274,634	242,586	32,048
	器械及び備品	1,150,647	845,750	304,897	1,219,906	908,787	311,119
	車 両	13,763	7,142	6,621	11,989	3,373	8,616
	リース資産	35,486	35,486	0	37,241	37,241	0
	建設仮勘定	0	0	0	0	0	0
	無形固定資産	1,788	523	1,265	1,927	523	1,404
	電話加入権	523	523	0	523	523	0
	ソフトウェア	0	0	0	0	0	0
	下水道利用権	1,265	0	1,265	1,404	0	1,404
	投 資	431,864	358,434	73,430	449,126	375,038	74,088
	長期貸付金	45,475	22,738	22,737	40,400	20,200	20,200
長期前払消費税	386,389	335,696	50,693	408,726	354,838	53,888	
流動資産		1,311,933	804,916	507,017	1,200,977	694,383	506,594
	現 金 預 金	317,951	212,088	105,863	312,378	164,098	148,280
	未 収 金	970,889	579,495	391,394	865,168	518,116	347,052
	貯 蔵 品	23,027	13,267	9,760	23,357	12,095	11,262
	その他流動資産	66	66	0	74	74	0
	合 計	9,517,866	7,191,628	2,326,238	9,796,692	7,398,765	2,397,927

別表 36

病 院 事 業 負 債

(単位：千円)

年 度 区 分		令和2年度末 現在高			令和元年度末 現在高		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
固定負債		6,610,711	5,615,922	994,789	7,037,262	5,801,887	1,235,375
企 業 債		6,596,073	5,601,284	994,789	7,017,326	5,781,951	1,235,375
リース債務		14,638	14,638	0	19,936	19,936	0
流動負債		2,185,742	1,204,751	980,991	1,993,097	1,080,111	912,986
一時借入金		1,050,000	570,000	480,000	840,000	450,000	390,000
企 業 債		540,853	256,567	284,286	524,029	252,794	271,235
リース債務		13,586	13,586	0	11,665	11,665	0
未 払 金		334,008	221,133	112,875	377,766	225,486	152,280
引 当 金		232,399	130,626	101,773	228,622	129,682	98,940
その他流動負債		14,896	12,839	2,057	11,015	10,484	531
繰延収益		632,977	381,207	251,770	804,386	453,928	350,458
長期前受金		4,466,502	2,217,827	2,248,675	4,350,718	2,145,478	2,205,240
長期前受金収益化累計額		△ 3,833,525	△ 1,836,620	△ 1,996,905	△ 3,546,332	△ 1,691,550	△ 1,854,782
負 債 合 計 (ア)		9,429,430	7,201,880	2,227,550	9,834,745	7,335,926	2,498,819

別表 37

病 院 事 業 資 本 金

(単位：千円)

年 度 区 分		令和2年度決算額			令和元年度決算額		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
	固有資本金	28,065	15,532	12,533	28,065	15,532	12,533
	出 資 金	698,437	315,539	382,898	384,297	166,070	218,227
	組入資本金	397,420	397,420	0	397,421	397,421	0
	資 本 金 合 計 (イ)	1,123,922	728,491	395,431	809,783	579,023	230,760

別表 38

病 院 事 業 剰 余 金

(単位：千円)

年 度 区 分		令和2年度決算額			令和元年度決算額		
		計	弥栄病院	久美浜病院	計	弥栄病院	久美浜病院
	資本剰余金	2,361,878	1,115,290	1,246,588	2,343,503	1,111,361	1,232,142
	受贈財産評価額	51,061	8,440	42,621	51,061	8,440	42,621
	寄 附 金	8,075	6,075	2,000	8,075	6,075	2,000
	他会計負担金	1,816,541	681,646	1,134,895	1,816,541	681,646	1,134,895
	補 助 金	393,360	383,151	10,209	393,359	383,150	10,209
	その他資本剰余金	92,841	35,978	56,863	74,467	32,050	42,417
	利益剰余金 (a+b+c-d)	△ 3,397,364	△ 1,854,033	△ 1,543,331	△ 3,191,339	△ 1,627,545	△ 1,563,794
	減債積立金 a	0	0	0	0	0	0
	利益積立金 b	0	0	0	0	0	0
	建設改良積立金 c	0	0	0	0	0	0
	当年度未処理欠損金 d	3,397,364	1,854,033	1,543,331	3,191,339	1,627,545	1,563,794
	(うち当年度純損益)	(△ 206,025)	(△ 226,488)	(20,463)	(△ 274,548)	(△ 335,657)	(61,109)
	剰 余 金 合 計 (ウ)	△ 1,035,486	△ 738,743	△ 296,743	△ 847,836	△ 516,184	△ 331,652

資 本 合 計 (イ)+(ウ)	88,436	△ 10,252	98,688	△ 38,053	62,839	△ 100,892
負債資本合計 (ア)+(イ)+(ウ)	9,517,866	7,191,628	2,326,238	9,796,692	7,398,765	2,397,927